分布調查報告書(34)

2008

山形県教育委員会

分布調查報告書(34)

平成 20 年 3 月

山形県教育委員会

本書は、山形県教育委員会が平成18年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめた ものです。

平成17年度からスタートした第5次山形県教育振興計画では、「いのち」「まなび」「かかわり」をテーマとしています。その中で文化財の保存と活用については、文化財基礎調査や遺跡詳細分布調査を計画的に実施すること、埋蔵文化財基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知徹底・普及に務めることが大きな柱とされました。調査により得られた情報はデジタル化され『山形県遺跡地図』による周知システムの運用と更なる改訂を進めていくことになります。

遺跡詳細分布調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地や未発見のままとなっている埋蔵文化財 包蔵地と、各種の開発計画との調整資料を得るために実施しております。その中で新たな 遺跡の発見や範囲の変更・削除など年々新たな情報が追加されていきます。本書はこれら の新しい埋蔵文化財に関する情報を知らせるものであり、開発計画の策定等にあたって積 極的に活用していただければ幸いです。

平成20年3月

山形県教育委員会 教育長 山口 常夫

例 言

- 1 本書は平成18年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成19年度以 隆の農林十木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査(県内遺跡発掘調査)の報告書で ある。
- 2 本書の作成は山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室の阿部明彦、石井浩幸、 丸吉繁一、高橋 敏 (平成18年度担当) の4名が担当した。
- 3 第Ⅰ章に平成18年度の調査遺跡一覧を、第Ⅱ章に個々の調査結果を記した。また、 第Ⅲ章に記録保存調査報告、第Ⅳ章には調査結果をまとめるとともに平成18年度に国等 の機関や市町村教育委員会、地権者から通知または届出のあった新規発見遺跡の一覧を示 した。平成18年度までの新規発見遺跡、登録抹消遺跡、範囲・位置の変更については本 書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。断面略図は40分の1を基 本としたが、1部20分の1も併用した。遺跡地図は国土地理院発行の2万5千分の1の 地図を使用した。なお、第Ⅱ章-2及び第Ⅲ章では、これを縮小して使用した。使用地図 の図幅一覧は巻末に掲載した。
- 5 挿図及び文中の記号は以下のとおりである。

T、TTは試掘溝(トレンチ)、TP、□は試掘抗を表す。図中の赤色部分は遺構・遺物 が検出されたことを示し、黒色部分は遺構・遺物が未検出であることを示す。

遺跡位置図の赤色部分は遺跡の範囲を示す。

ST-竪穴住居跡 SB-建物跡 SK-土坑 SD-溝跡 EB-掘り方

EP-柱穴

SX-性格不明落ち込み

- 6 図版の遺物縮尺は任意縮尺である。
- 7 調査にあたっては、関係機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者のご協 力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

目 次

Ι	調	査の目的、方法と経過	
	1	調査の目的、方法	
		調査の経過	
П	調	査の概要	
	1	遺跡地名表	
	(1)	県農林事業関係遺跡	
	(2)	県土木事業関係遺跡	
	(3)	県教育庁関係遺跡	
	(4)	住宅公社関係遺跡	
	(5)	国土交通省関係遺跡	
	2 i	試掘調査の概要	
	(1)	西山遺跡	22
	(2)	植ノ山1遺跡	24
	(3)	葎田2遺跡	20
	(4)	野村清水遺跡	30
	(5)	上の寺遺跡	32
		上野遺跡	
		泉興野1遺跡	
	(8)	泉興野 2 遺跡	3′
		天神堂大坪遺跡	
		野田蕨手刀出土地 1	
		草伊賀 B 遺跡	
		石橋遺跡	
		天矢場遺跡	
		山形城三ノ丸	
		達磨寺遺跡	
		檜原遺跡	
		上大作裏遺跡	
		堤屋敷遺跡	
		川内袋遺跡	
		南田遺跡	
		保呂羽堂遺跡	
(22)	円能寺村東遺跡	84
(23)	分遺跡	88
		禄保存 立会調査の概要	
		八幡西遺跡	
		空沢遺跡	
	3 7	石橋遺跡	109

™ まとめ

1 調査遺跡	がについて こうしゅうしゅう	
2 新規登録	最遺跡及び記載事項変更遺跡、登録抹消遺跡	
(1) 県教育	委員会が発見し登録した遺跡	117
(2) 国等の	機関、市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出	
により) 登録した遺跡	118
(3) 範囲等	の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡	118
	挿 図 目 次	
第 1 図	西山遺跡調査概要図	
第 2 図	西山遺跡調査平面・断面図	
第 3 図	植ノ山1遺跡調査概要図	
第 4 図	4 日 2 遺跡調査平面図 4 1 5 1 6 1 7 1 8 1 9 1 10 1 11 1 12 1 12 1 13 1 14 1 15 1 16 1 17 1 18 1 19 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1 10 1	
第 5 図	葎田2遺跡調査概要図	
第 6 図	葎田2遺跡須恵器拓影図	
第 7 図	野村清水遺跡調査概要図	
第8図	野村清水遺跡調査平面・断面図	
第 9 図	上の寺遺跡調査概要図	
第10図	上野遺跡調査概要図	34
第11図	泉興野1遺跡調査概要図	
第12図	泉興野2遺跡調査概要図	37
第13図	天神堂大坪遺跡調査概要図	38
第14図	泉興野1・2遺跡、天神堂大坪遺跡調査平面図・断面図.	4
第15図	野田蕨手刀出土地1調査概要図	42
第16図	野田蕨手刀出土地1調査平面・断面図	43
第17図	草伊賀B遺跡調査概要図	48
第18図	草伊賀B遺跡出土遺物実測図	49
第19図	石橋遺跡調査概要図	5
第20図	石橋遺跡調査平面・断面図	52
第21図	天矢場遺跡調査概要図	54
第22図	天矢場遺跡調査平面·断面図	5
第23図	天矢場遺跡出土土器拓影図	5
第24図	山形城三ノ丸調査概要図	5
第25図	達磨寺遺跡調査概要図	60
第26図	檜原遺跡調査概要図	6
第27図	檜原遺跡調査平面・断面図	6
第28図	上大作裏遺跡調査概要図	6
第29図	上大作裏遺跡調査断面図	6
第30図	上大作裏遺跡出土土器拓影図	6

第31図	堤屋敷遺跡、下屋敷遺跡調査概要図	71
第32図	堤屋敷遺跡調査平面図・断面図	72
第33図	堤屋敷遺跡出土土器拓影図	72
第34図	川内袋遺跡調査概要図	74
第35図	川内袋遺跡調査平面・断面図	75
第36図	川内袋遺跡出土土器拓影図	
第37図	南田遺跡調査概要図	78
第38図	南田遺跡調査調査平面・断面図	79
第39図	保呂羽堂遺跡調査概要図	81
第40図	保呂羽堂遺跡調査平面・断面図	82
第41図	保呂羽堂遺跡出土遺物実測図	83
第42図	円能寺村東遺跡調査概要図	84
第43図	円能寺村東遺跡出土土器拓影図	86
第44図	分遺跡調査概要図	88
第45図	八幡西遺跡調査概要図	90
第46図	八幡西遺跡調査平面図	91
第47図	八幡西遺跡出土遺物実測図	93
第48図	空沢遺跡周辺遺跡地図	95
第49図	空沢遺跡調査区位置図	95
第50図	空沢遺跡調査区断面図	96
第51図	空沢遺跡調査平面図(1)	97
第52図	空沢遺跡調査平面図(2)	99
第53図	空沢遺跡出土遺物実測図	100
第54図	石橋遺跡位置図	104
第55図	石橋遺跡調査概要図	102
第56図	石橋遺跡平面・断面図(1)	106
第57図	石橋遺跡平面・断面図(2)	107
第58図	石橋遺跡平面・断面図 (3)	108
第59図	石橋遺跡平面・断面図 (4)	109
第60図	石橋遺跡平面・断面図 (5)	110
第61図	石橋遺跡出土遺物実測図	111
	附表目次	
表-1	平成18年度埋蔵文化財遺跡詳細分布調査一覧	2 • 3
表-2	平成18年度県内遺跡分布・試掘調査工程表	
表-3	石橋遺跡出土遺物観察表	
表-4	掲載遺跡位置図使用図幅一覧(2万5千分の1)	

図 版 目 次

凶版 1	西川遺跡		23
図版 2	植ノ山1遺跡		25
図版3・4	葎田2遺跡		28 • 29
図版 5	野村清水遺跡		31
図版 6	上の寺遺跡		33
図版 7	上野遺跡		35
図版8~10	泉興野1・2遺跡	•天神堂大坪遺跡	39 ~ 41
図版 11~14	野田蕨手刀出土地	1	44 ~ 47
図版 15	草伊賀B遺跡		49
図版 16・17	石橋遺跡		51 • 53
図版 18・19	天矢場遺跡		56 • 57
図版 20	山形城三ノ丸		59
図版 21	達磨寺遺跡		61
図版 22・23	檜原遺跡		64 • 65
図版 24・25	上大作裏遺跡		68 • 69
図版 26・27	堤屋敷遺跡		70 • 73
図版 28・29	川内袋遺跡		76 • 77
図版30	南田遺跡		79
図版 31~33	保呂羽堂遺跡		80 ~ 83
図版34~36	円能寺村東遺跡		85 ~ 87
図版 37	分遺跡		89
図版38~40	八幡西遺跡		91 ~ 93
図版41-42	空沢遺跡		101 • 102
図版43・46	石橋遺跡		112 ~ 115
	遺跡地	名表 挿図・図版	
遺跡地名表	位置図・図版 1		10
遺跡地名表	位置図・図版 2		11
遺跡地名表	位置図・図版 3		12
遺跡地名表	位置図・図版 4		13
遺跡地名表	位置図・図版 5		14
遺跡地名表	位置図・図版 6	県土木事業関係遺跡	・県教育庁関係遺跡15
遺跡地名表	位置図・図版 7		16
遺跡地名表	位置図・図版 8		17
遺跡地名表	位置図・図版 9		18
遺跡地名表	位置図・図版10		19
遺跡地名表	位置図・図版11		20
遺跡地名表	位置図・図版12	国土交通省関係遺跡	21

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成 18 年度以降に予定されている開発計画に先行して、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお一部今年度までの調査結果に基づき記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会の調査も実施した。調査はその目的によって以下の方法で実施した。

(1) A調查(現地確認調查·表面調查)

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を 確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B調査(試掘調査)

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ 等を把握して開発計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査(記録保存のための発掘調査)

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や開発事業にかかる面積が狭い場合 や接する場合に必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4) 立会調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2 調査の経過

山形県教育委員会では毎年5~6月に開発関係機関に今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて7月上旬に聴き取りを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そしてこの結果に基づいて必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか開発関係機関から提出された埋蔵文化財分布調査に基づく調査も随時行っている。

平成18年度の調査は表-1に示した各遺跡の調査を平成19年4月から平成20年3月まで表-2の工程で行うとともに、事業予定区内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も実施した。

なお、平成 18 年度に県教育委員会が新たに発見した遺跡(平成 18 年度登録遺跡)、範囲等を訂正した遺跡、登録を抹消した遺跡はIV章のまとめに示した。

表一1 平成18年度埋蔵文化財遺跡詳細分布調査一覧

No.	事 業 名	車架地口力	Ι,		2-h-	b		調査	区分		fills -	ly.
INO.	事 業 名	事業地区名	1	貴	硛	名	Α	В	С	立会	備	考
1	一般農道整備事業 天童市成生地区2期	天童市成生	前	〔 野	堂	前		0				_
2	一般農道整備事業 中山町向日葵地区	中山町土橋			尚	山	_	0				
3	畑地総合整備事業 鹿島・石持原地区	寒河江市石持			持	原				0		
	農地環境機能整備事業	鶴岡市慌代								0		
	農地環境機能整備事業		1			野	-	0				
	ふるさと農道緊急整備事業 新庄市野中地区	新庄市野中	_		頂		_					-
	農免農道整備事業 寒河江中央地区		Ė		の	寺		0				-
	経営体育成基盤整備事業 鳴谷地地区	上山市小倉				1		0			範囲訂:	77
	経営体育成基盤整備事業 鮭川左岸地区				Щ	田		0			車店[四百].	ш
	経営体育成基盤整備事業 鮭川左岸地区		-	-	H	<u></u>		0			李€-1日 ₹%	E
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区		1				0	-			新規発	ול
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	-									_
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	-									_
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区		-					-		-		_
		長井市九野本	-									
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	-		遺	跡					due to me	_
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	-		遺	跡	_				新規発	見
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	-				0					
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本					0					
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	-				0					
	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本			生 地	1 5	0					
_	経営体育成基盤整備事業 鷺畑地区	鶴岡市添川	西	íЩ	墳	墓	0					
	中山間総合整備事業 ふじの里東部地区	鶴岡市添川	西	Ī		Щ				0		
23	中山間総合整備事業 ふじの里東部地区	鶴岡市川代	海	1	谷	森	0					
24	中山間総合整備事業 ふじの里東部地区	鶴岡市添川	野	村	清	水	0	0				
25	中山間総合整備事業 ふじの里東部地区	鶴岡市添川	郷	0	浜	Е	0	0				_
26	畜産担い手育成総合整備事業	新庄市昭和	未	: 7	催	認	0					_
27	畜産担い手育成総合整備事業	真室川町新町	未	7	隺	認	0					_
28	主要地方道天童大江線 蔵増バイパス	天童市蔵増	-		催	認	0					
29	一般県道荒谷原崎線	天童市山元			pa.	元	Ō	0			範囲修正	īF
30	地方道路整備交付金長瀞野田線	東根市野田			刀出	, -	Ō	0			₩	_
	臨時道路整備事業 (一) 東根長島線	村山市名取			智	В	0				範囲訂正	T
_	県道真室川鮭川線歩道新設工事	鮭川村石名坂	-		只	反					市区[2010]1	ш
33	一般国道287号長井南バイパス	川西町西大塚	-		番	西西				0		_
34	(主) 高畠川西線道路改築事業	川西町中小松	-		寉	認				0		_
35	(主) 酒田松山線道路改築事業	酒田市飛鳥	-		世野	章 1	0				4c.1H Δ/c E	
36	(主) 酒田松山綠道路改築事業		-					0			新規発見	
37	(主) 酒田松山線道路改築事業	酒田市飛鳥						0			新規発見	
-	灯台下急傾斜地崩壞対策事業	酒田市飛鳥					0	0			新規発見	元
	大波渡川通常砂防事業	鶴岡市由良			₹ 	館				0		_
-		鶴岡市堅苔沢								0		_
_	淵の上急傾斜地崩壊対策事業	鶴岡市堅苔沢	_			館	0					
_	家の前自然災害防止事業	八幡町北青沢			7	館				0		
	内田元急傾斜地崩壊対策事業	鶴岡市中清水				館				0		
	山寺急傾斜地崩壊対策事業	山形市山寺				寺				0		
_	急傾斜地崩壞対策事業	山形市山寺				寺				0		
	大地蔵沢川通常砂防事業	米沢市赤崩	市	7	ī	d				0		
	七郎ヶ沢通常砂防事業	米沢市関根			ケ	沢				0		
47	県立米沢商業高等学校校舎改築	米沢市米沢	未	石	隹	認	0					
18	県立酒田東高等学校校舎改築	酒田市酒田			奇城	跡				0		
19	住宅団地造成事業	天童市貫津				橋	0	0	0		新規発見	見
50	住宅団地造成事業	山形市岩波			隹	認	O	-				_
51	最上川下流沿岸農業水利事業前川第2幹線用水路	酒田市境興野					O	0			新規発見	見
_	最上川下流沿岸農業水利事業前川第3幹線用水路	酒田市境興野		5		-10	0	0			新規発見	
	最上川下流沿岸農業水利事業前川第4幹線用水路	酒田市境興野	11:			2	0				AN AND THE J	-
\rightarrow	山形地方裁判所増築事業	山形市山形				認		0	-			-
_	国道13号 新庄北道路	新庄市松本					-	0		-		-
\rightarrow	新庄古口道路	新庄市松本		HE T	上地	宮宮		9			쇼다.1日 ᢦ ㅇ ㄷ	=
_	新庄古口道路			_1	,		0				新規発見	己
- T	기소 다 크 본 14	新 庄 市	仴	フ	`	端	0					

No.	事業名	事業	地	区台	2	進	i B	亦	名		調査			備考
		1 //								Α	В	С	立会	,,,,
	新庄古口道路	新	庄		市		幡	原	1	0				新規発見
59	新庄古口道路	新	庄		市	八	幡	原	2	0				新規発見
60	新庄古口道路	新	庄		市	高			田	0				新規発見
61	新庄古口道路	戸 沢	村	古	П	タ			テ	0				新規発見
62	新庄古口道路	戸 沢	村	古	П	岩	Ì	阜	楯	0				
63	新庄古口道路	戸 沢	村	古	П	可	能相	生士	也 1	0				
64	新庄古口道路	戸 沢	村	古	\Box	可	能相	生士	也 2	0				
65	新庄古口道路	戸 沢	村	占	П	可	能相	生士	也 3	0				
66	新庄古口道路	戸 沢	村	古	П	可	能相	生士	也 4	0				
67	新庄古口道路	戸 沢	村	古	П	미	能相	生力	也 5	0				
68	新庄古口道路	戸 沢	村	古	П	可	能力	生士	也 6	0				
69	新庄古口道路	戸 沢	村	古	П	可	能相	生士	也 7	0				
70	新庄古口道路	戸 沢	村	古	П	可	能付	生力	也 8	0				
71	新庄古口道路	戸沢	村	古	П	出			舟	0				
72	新庄古口道路	戸沢	村	古	П	\blacksquare			島	0				新規発見
73	国道13号 上山バイパス	上山	市	中	山	中	ļ	Ц	城	0				
	国道13号 上山バイパス中川工区	南陽	市	中	Щ	可	能化	生士	也 1		0			
	国道14号 上山バイパス中川工区		市	Л	樋	天	4	矢	場		0			新規発見
	国道15号 上山バイパス中川工区	南陽	市	Ш	樋	可	能化	生士	也 5		0			
	国道112号霞城改良	山形	市	Щ	形	山	形城	Ξ	の丸	0	0			
78	国道112号間沢歩道拡幅	西川	町	間	沢	間	ì	尺	館	0				
79	国道112号海味歩道拡幅	西川	町	海	味	海	į	朱	館	0				
80	国道113号赤湯バイパス	南陽	市	高	梨	檜			原		0			
81	国道113号赤湯バイパス	南陽	市	梨	郷	上	大	作	裏		0			
82	東北中央自動車道福島米沢間 梓山地区	米 沢	市	桑	山	可	能	生:	也 3		0			
	東北中央自動車道福島米沢間 梓山地区	米 沢	市	桑	Ш	堤	J	晕	敷		0			範囲訂正
	東北中央自動車道福島米沢間 梓山地区	米 沢	市	桑	山	Щ)	下		0			
	日本海沿岸自動車道 鶴岡温海間	鶴岡i	市日	1.+	·JII	Ш		内	袋		0			
	日本海沿岸自動車道 鶴岡温海間	鶴岡i	市自	ΙЦ	林	南			田		0			範囲訂正
87		鶴岡i					1	作	3	0				
-	日本海沿岸自動車道 鶴岡温海間	鶴岡	市日	山白	林	出	張	坊	坂城	0				
_	須川河川改修	山形	市	灰	塚	可							0	
	須川河川改修	山形	市	灰	塚	可	能	性:	地 7		0			
-	須川河川改修	山形	市	灰	塚	可	能	性:	地 8		0			
_	須川河川改修	中山	町	幸磨	寺	達		磨	寺		0			
_	窪田地区水防倉庫新築事業	米 沢	市	窪	田	保	呂	7	量		0		0	
	長井ダム建設工事利水補償施設建設工事	長井				_		性	: 地		0			
	長井ダム建設工事利水補償施設建設工事	長井				-			沢		0	0		

表-2 平成18年度県内遺跡分布・試堀調査工程表

		平		成		18		年		7	区成194	年	7	区成20年	丰
事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月	2月	3月
県農林·土木事業関係									_	-	-	_			
国土交通省·農林水産省 県住宅供給公社他関係 平成19年度以降の埋蔵文化財包蔵 地に関わる開発事業計画の聴き取り				_	_			_			-				
遺物資料整理												-			
報告書原稿作成												-			-

Ⅱ 調査の概要

1 遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡

No.	種 別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	熊野堂前遺跡 接 地		不 明	自然堤防 (97m)	樹園地
2	包蔵地	松 岡 山	中山町大字小塩字塩の原	縄文時代	丘 陵 (106m)	雑種地 樹園地
3	包蔵地	石持原 · 可能性地	2 寒河江市石持	縄文時代	段 丘 (115m)	樹園地 畑地
4	包蔵地	たらのき代口	鶴岡市楪代字小文地楯	縄文時代	台 地 (245m)	水 田
5	集落跡		鮭川村石名坂字葎田	平安時代	自然堤防 (60m)	水 田 荒蕪地
6	集落跡	谷 地 寺	長井市大字九野本字長野	縄文時代	平 地 (205m)	水 田
7	包蔵地	谷 地 中	長井市大字九野本字谷地中	縄文時代	沖積地 (205m)	宅 地水 田
8	館跡城館 跡	遠 藤 屋 敷	長井市大字九野本	中世~	平 地 (204m)	水 田畑 地
9	城館跡	大 屋 敷	長井市大字九野本	中世~	平 地 (204m)	畑地
10	集落跡	南台	長井市大字台町	縄文時代 古墳時代 平安時代	平 地 (204m)	水 田荒蕪地
11	集落跡	新町	長井市大字九野本字新町	縄文時代	平 地 (206m)	水 田荒蕪地
12	不明	可能性地2	長井市大字九野本	不 明	平 地 (204m)	水 田
13	不明	可能性地3	長井市大字九野本	不 明	平 地 (204m)	水 田宅 地
14	不明	可能性地4	長井市大字九野本	不 明	平 地 (205m)	水 田
15	不明	可能性地5	長井市大字九野本	不 明	平 地 (205m)	水 田
16	集落跡	上 野	南陽市大字上野字上野	平安時代 中 世	台 地 (240m)	畑 樹園地 荒蕪地
17	墳墓	西 山 墳 墓	鶴岡市大字添川字西山	平安時代	山 (41m)	山林
18	包蔵地	西山	鶴岡市大字添川字西山	平安時代	丘 陵 (53m)	畑地
19	包蔵地	海 谷 森	鶴岡市川代字西増川山	縄文時代	山 腹 (250m)	荒蕪地
20	包蔵地	野 村 清 水	鶴岡市大字東堀越字郷の浜	縄文時代	台 地 (55m)	樹園地水 田
21	包蔵地	郷 の 浜 E	鶴岡市大字東堀越字郷の浜	縄文時代	台 地 (60m)	樹園地

遺跡概要	出 土 遺 物	備考
天童市街地の北方、乱川扇状地の端部に位置する。農道 整備工事に伴い試掘調査を実施した。25ヶ所の試掘坑か ら遺構遺物は確認されない。範囲外と判断される。	なし	熊野堂遺跡210-67の隣接地
農道改良工事に係る試掘調査を実施した。トレンチ1ヶ所・ 試掘坑4ヶ所の調査地点からは遺構遺物は検出されなかっ た。表面踏査では石器類を採集。	なし	302-419
長岡山の北側に位置する。農道整備に伴い、5ヶ所のトレンチを設定、試掘調査を実施した。遺構遺物は認められなかった。事業区域に遺跡はないと判断された。	なし	No.425
暗渠管埋設に係る立会調査を実施した。掘削溝の幅は15 cmであり、遺構は確認されなかった。また堀り上げられた 土砂にも遺物の混入は認められなかった。	なし	No.1938
圃場整備及びポンプ場設置工事に伴い、遺跡一帯を踏査 した。自然堤防状の高まり部分となっており、廃棄物置き場 となっていた。試掘調査が必要である。	なし	No.1046
遺跡範囲内より多数の縄文土器と石器剥片が採集される。 長井市教育委員会の試掘では縄文時代中期の遺構遺物 が確認された。	縄文土器片·石器剥片	平成18年度長井市教育委員会 調査
縄文時代晩期の遺跡として、昭和61年に登録されている。 現況は宅地・水田となっており遺物の散布は確認していない。	なし	分布調査14にて登録 104
水路や建物配置から城館跡の可能性がある。方形に堀が巡ると想定される。試掘調査による確認が必要である。	陶磁器片	d-211
遠藤屋敷の南側に位置する。一辺200mの大きな屋敷跡で、堀や土塁を残している。地籍図でも方形館の状況が伺える。	陶磁器片	d-212
古墳時代〜平安時代の遺跡として登録され、長井市教育 委員会の発掘調査では古墳時代の住居跡が検出された。 圃場整備予定地域にまで広がる可能性がある。	なし	長井市遺跡地名表 11
遺跡の南西50mには縄文時代後期の登ノ越遺跡があり、 大きく遺跡範囲の中に含まれる可能性がある。試堀調査が 必要である。	縄文土器片·石器剥片	平成18年度新規登録
長井市生涯学習プラザの東側に位置する。若干の陶磁器 片を採集した。中世以降の屋敷等が存在する可能性があ る。試掘調査による確認が必要である。	陶磁器片	
近接する宅地の区割り及び用水路の形状が館土塁・堀跡と も考えられるため、試掘調査による確認が必要である。	陶磁器片	
少量の遺物の散布を確認しているが水田内での遺物を発見しにくい状況であるため、試掘調査による確認が必要である。	土器片 陶磁器片	
数点の陶磁器片の散布を確認しているが水田内での遺物 を発見しにくい状況であるため、試掘調査による確認が必 要である。	陶磁器片	
南陽市街地から北西約1.5kmの台地上に立地する。事業 予定地に5本のトレンチを設定し調査を行ったが、どのトレ ンチからも遺構遺物は確認されなかった。	なし	平成16年度・18年度(財)山形 県埋文センター発掘調査実施 平成16年度登録
小丘陵上に高さ1.5m、径5mの円墳状のマウンドが認められる。付近からは土師器片が採集されているが正確な規模や時期は不明である。	なし	423-1737
平成15年に農道拡幅工事に伴い、発掘調査を実施している。今回平成18年未買収部分の立会調査を実施。柱穴4基を確認し、内3基を精査した。遺物の出土はない。	なし	平成15年(財)山形県埋蔵文化 財センター発掘調査実施
縄文時代の遺跡として登録され、以前に石鏃・石匙等が採集されている。農道整備事業に伴い、計画区域を踏査した。急斜面地にあたり遺跡はないと判断された。	なし	424-1825
羽黒高校北側に位置する。踏査により土器小片を採集したが、トレンチと試掘坑による試掘調査では時期不明のピットの他、遺構遺物は確認されなかった。	なし	423-1746
ため池建設に伴い、踏査を行った。野村清水遺跡に隣接する。果樹の栽培のため遺物等の確認はできなかった。	なし	423-1745

(2) 県土木事業関係

No.	種別	遺	跡	名	所在地	時期	立地	地	
22	集落跡	Щ		元	天童市大字山元字寄際	平安時代	台 地 (115m)	宅 樹屋	地園地
23	包蔵地	野田蕨	手刀出	土地1	東根市大字野田	平安時代	平 地 (97m)	宅 樹屋	地園地 地地
24	集落跡	草 伊	1 3	賀 B	村山市大字名取字草伊賀	平安時代	丘 陵 (97m)	畑水	地田
25	集落跡	小		反	鮭川村大字京塚字小反	縄文時代	段 丘 (69m)	水	田
27	楯城館跡	由	良	館	鶴岡市大字由良	中 世	山 腹 (50m)	山 荒棄	林
28	楯城館跡	堅 苔	i i	尺 館	鶴岡市大字堅苔沢	中 世	山 山 腹 (80m)	山 荒瀬	林
29	城館跡	青	沢	館	酒田市大字北青沢	中 世	山 腹 (235m)	山宅	林地
30	城館跡	粟		館	鶴岡市中清水字桃木沢	不 明	山 (58m)	山	林
31	寺院	山		寺	山形市山寺	中 世近 世	山 腹 (250~ 300m)	山	林
32	集落跡	市	布	d	米沢市李山字市布	縄文時代	谷底沖積 (370m)	山坎	林田
33	散布地	七 郎	5	ケ沢	米沢市大字関根字七郎ヶ沢	縄文時代	平 地 (324m)	畑山	地林

(3) 県教育庁関係遺跡

No.	種別		遺	跡	名		所在地	時	期	立 地	地 目
34	城館跡	亀	ケ	崎	城	跡	酒田市亀ヶ崎	中近	世世	平 地 (3m)	校舎敷地

(4)住宅公社関係遺跡

No.	種別		遺	跡	名		所在地	時 期	立 地	地	目
35	集落跡	石				橋	天童市大字貫津字石橋	平安時代	平 地 (115m)	畑水	地田

(5)国土交通省関係

No.	種別		遺路	亦 名		所在地	時 期	立 地	地	目
36	散布地	福			宮	新庄市大字本合海字福宮	縄文時代	段 丘 (81m)	水	田
37	散布地	清	ス	k	端	新庄市大字福田字八幡原	縄文時代中 世	段 丘 (82m)	畑水	地田
38	散布地	八	幡	原	1	新庄市大字福田字八幡原	縄文時代 平安時代	段 丘 (82m)	畑水	地田
39	散布地	八	幡	原	2	新庄市大字福田字八幡原	縄文時代	段 〔83m〕	畑水	地田
40	散布地	高			田	新庄市大字福田字高田	縄文時代 平安時代	段 丘 (85m)	畑	地
41	散布地	タ			テ	戸沢村大字蔵岡	縄文時代 平安時代	段 丘 (56m)	水畑荒蕪	田地

遺 跡 概 要	出土遺物	備考				
県道新築工事に伴い山元遺跡近接地の試掘調査を実施し						
た。遺構遺物は確認できなかった。付近の表面踏査から山	土師器片·須恵器片	範囲修正				
元遺跡の範囲が広がることが捉えられた。						
県道新築工事に伴い蕨手刀が出土した地点に隣接する部						
分の試掘調査を実施した。少量の遺物が出土し、遺跡範囲	須恵器片・土師器片 No.7					
内であることが判明した。						
県道改良工事に伴い試掘調査を実施した。以前の耕地整						
理により大幅に削平されていることが認められた。出土土器	土師器片・須恵器片 分布調査7 24-22					
片は東側丘陵からの流れ込みと思われる。						
歩道設置工事に伴う現道拡幅工事の立会調査を実施し		平成16年度(財)山形県埋文セ				
た。柱穴と縄文土器や石器が散見されたが、工事による影	縄文土器片・石器剥片	ンター発掘調査実施				
響は軽微であると判断された。		2 7 光娟啊且天池				
急傾斜地崩壊対策工事に伴い、計画区域の工事の立会調						
査を実施した。新たに帯曲輪が2乗廻るのを確認した。工	なし	203-040				
事進捗に合わせて随時立会調査することとした。						
大波渡川通常砂防事業に係る堰堤工事の状況を確認し						
た。堰堤の主体が曲輪に掛かる部分については工事前の	なし 203-064					
試掘調査が必要である。						
館東側急傾斜地の法面工事の立会調査を実施する。法枠						
最上部は館の曲輪に及ばない。遺跡への影響はきわめて	なし	462-007				
少ないと判断される。						
下清水と中清水の間に位置する小丘陵の山頂に立地す						
る。砂防事業による擁壁工事に伴い踏査を実施した。工事	なし	203-019				
による影響は少ないと判断された。						
三輪稲荷神社に隣接する地点について落石防護擁壁工		-l- mls to mil				
事の立会調査を行った。トレンチと試掘坑を設定し調査し	Ш.	史跡名勝				
た。TT1より皿1点出土した。						
砂防事業の堤体工事に伴い、立会調査を実施した。堤体		米沢市文化財地図				
設置箇所からは遺構遺物は確認されなかった。	なし	E-104				
카타떠내고 = > (사는 -) 스펙 = >		_				
砂防堰堤工事に伴う立会調査を実施した。現林道の拡幅	4-1	T-4105 F774				
工事ににあたり重機による掘削を行ったが遺構遺物は確認	なし	平成16年度登録				
できなかった。遺跡範囲外と判断された。						

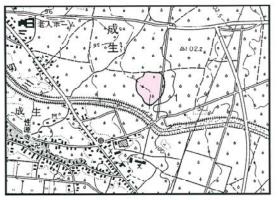
遺 跡 概 要	出	土	遺	物	備考
校舎改築事業に伴い、電柱設置工事の立会調査を実施した。電柱設置箇所の掘削では遺構は確認されなかった。遺物は上層から近代以降の陶磁器片が出土した。	陶磁器片				204-008 数度にわたる立会 調査と発掘調査を実施している

遺跡概要	出 土 遺 物	備考
事業区域内に9本のトレンチを設定した。どの調査区からも ピットとともに須恵器片・土師器片が出土した。事業範囲内 の発掘調査が必要である。	土師器片・須恵器片	平成18年度新規登録 9月県教委発掘調査実施

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備考
福宮地区の北側、升形川左岸の低位段丘面の北側縁で石 器剥片を採集した。まとまった散布が認められた。	石器剥片	平成18年度新規登録
升形川左岸の段丘上に位置する。以前に圃場整備を受けており、遺構が削平されていることも考えられる。	なし	分布調査16 16-5
八幡原古窯推定地とされる段丘崖上の平坦地に位置する。縄文時代後期の土器・石器、須恵器片・土師器片を採集した。	須恵器片・士師器片・ 縄文土器片・石器剥片	平成18年度新規登録
八幡原1遺跡と谷を挟んで西側に位置する。縄文土器や石器剥片を採集した。八幡原1遺跡と同じ遺跡となる可能性がある。	縄文土器片	平成18年度新規登録
福田地区の北側升形川左岸の低位段丘面の北側縁に位置する。まとまって遺物の散布が認められた。	須恵器片・土師器片・ 縄文土器片・石器剥片・ 両面加工石器	平成18年度新規登録
鮭川の形成した低位段丘面に位置し、岩鼻楯に近接する。 水田面より須恵器坏片や石器剥片を採集した。	須恵器片·石器剥片	平成18年度新規登録

42	城館跡	岩		鼻		楯	戸沢村大字蔵岡	中	世	段 丘 (56m)	宅畑	地地
43	集落跡	出				舟	戸沢村大字津谷	縄文甲安		段 丘 (43m)	水山	田林
44	散布地	Ш				嶋	戸沢村大字古口	平安	時代	段 丘 (35m)	水	田
45	不明	可	能	性	地	1	新庄市大字福田字八幡原	不	明	段 丘 (82m)	水宅	田地
46	不明	可	能	性	地	2	新庄市大字福田字八幡原	不	明	段 丘 (82m)	水畑	田地
47	不明	可	能	性	地	3	新庄市大字本合海字福宮	不	明	段 丘 (80m)	水畑	田地
48	不明	可	能	性	地	4	新庄市大字本合海字福宮	不	明	段 丘 (79m)	水畑荒蕪	田地
49	不明	可	能	性	地	5	新庄市大字升形	不	明	段 丘 (90m)	山 荒蕪	林
50	不明	可	能	性	地	6	新庄市大字升形	不	明	段 丘 (65m)	水山荒蕪	田林地
51	不明	可	能	性	地	7	新庄市大字升形	不	明	段 丘 (105m)	水	田
52	不明	可	能	性	地	8	戸沢村大字津谷	不	明	段 丘 (92m)	Щ	林
53	不明	可	能	性	地	1	南陽市大字元中山	不	明	丘 陵 (270m)	樹畑宅	地地地
54	城館跡	間		沢		館	西川町大字間沢字東	中	世	段 丘 (214m)	宅	地
55	城館跡	海		味		館	西川町大字海味字海の宿	中	世	段 丘 (205m)	宅畑	地地
56	散布地	Ш)		下	米沢市大字万世町字桑山	縄文F 中世	時代 近世	段 丘 (287m)	畑水	地田
57	集落跡	玉		作		3	鶴岡市大字下清水	平安	時代	平 地 (18m)	水	田
58	城館跡	出	張		坂	城	鶴岡市大字下清水	不	明	台 地 (22m)	エ	場
59	集落跡	達		磨		寺	中山町大字達磨寺字達磨	奈良・	平安	自然堤防 (94m)	河川堤	敷 防

須恵器 石器剥片	367-008
須恵器片・土師器片・ 縄文土器片・石器剥片	No.1104 範囲修正
須恵器片·土師器片	平成18年度新規登録
石器剥片	
土器片 石器剥片	
石器剥片	
なし	地形による
なし	地形による
なし	地形による
土器片	
なし	地形による
石器剥片	
なし	322-010
なし	322-006
縄文土器	平成17年度登録
なし	平成16年度登録
なし	203-020
須恵器片	302-400
	須恵器片・土師器片・ 須恵器片・土師器片 須恵器片・土師器片 石器剥片 土器片 石器剥片 なし なし ない 土器片 ない ない ない ない ない ない ない ない ない な



能野党前清跡隣接州



熊野堂前遺跡隣接地調査区近景 (東〜)



熊野堂前遺跡隣接地試掘坑



熊野堂前遺跡隣接地試掘坑





松岡山遺跡遺跡近景

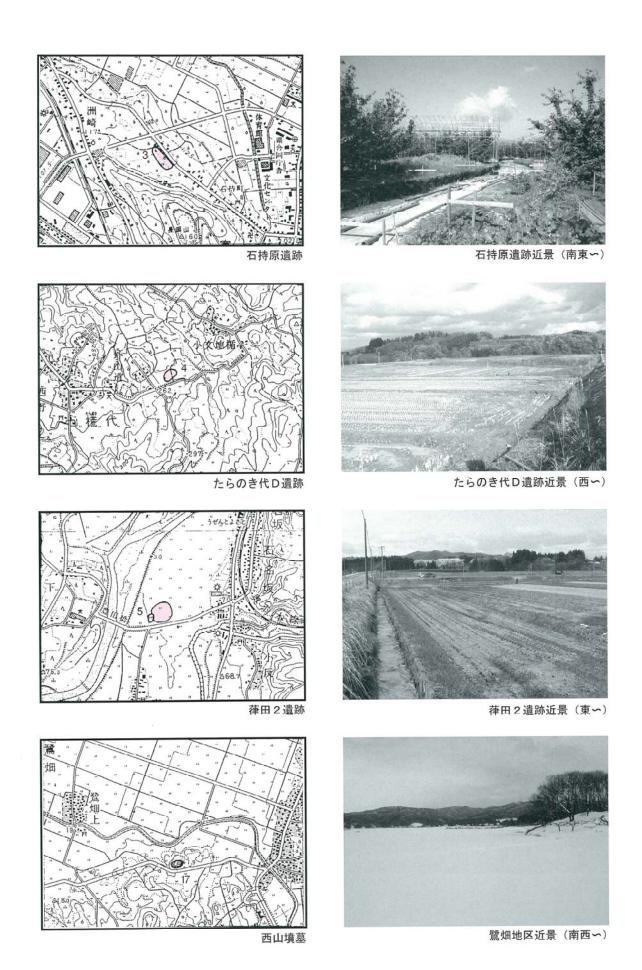


松岡山遺跡調査対象地近景

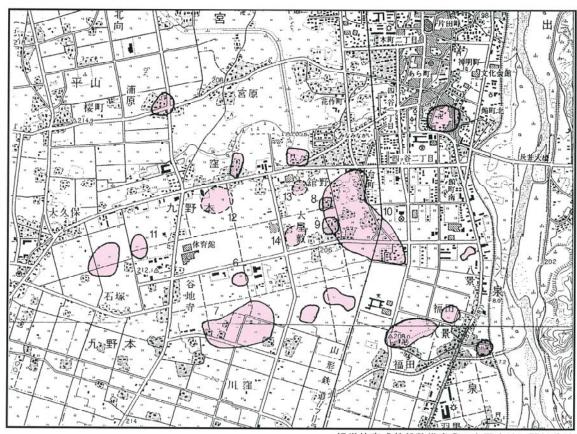


松岡山遺跡採集遺物 (石器等)

遺跡地名表 位置図·図版1 (県農林事業関係遺跡)



遺跡地名表 位置図·図版2 (県農林事業関係遺跡)



経営体育成基盤整備事業下九野本地区関係遺跡



大屋敷遺跡近景



新町遺跡遠景

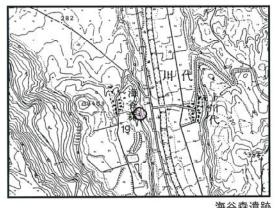


谷地寺遺跡近景



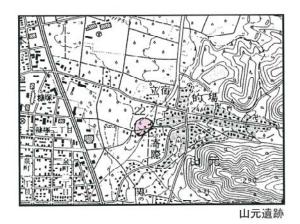
谷地寺遺跡採集遺物

遺跡地名表 位置図・図版3 (県農林事業関係遺跡)



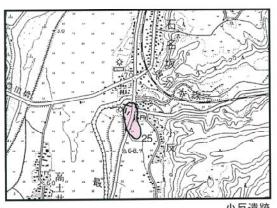


海谷森遺跡近景





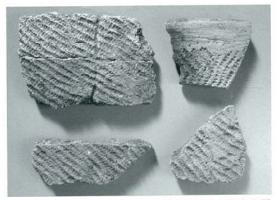
山元遺跡近景(西~)



小反遺跡



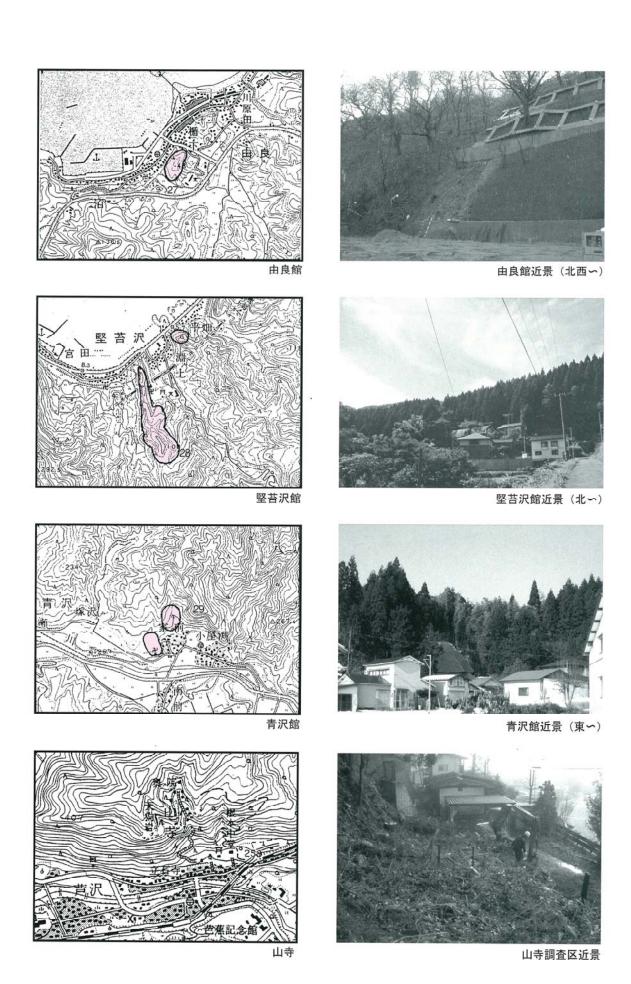
小反遺跡調査区近景 (南〜)



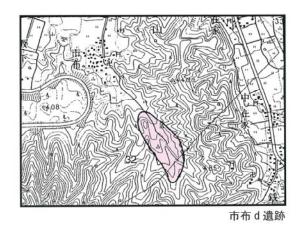
小反遺跡出土縄文土器



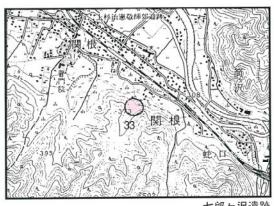
小反遺跡出土石器



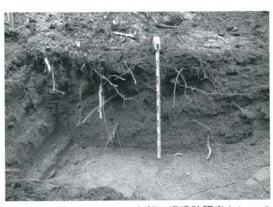
遺跡地名表 位置図・図版5 (県土木事業関係遺跡)



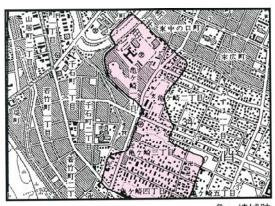




七郎ヶ沢遺跡

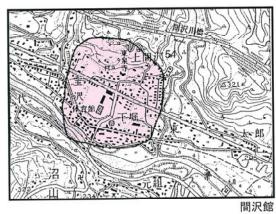


七郎ヶ沢遺跡調査トレンチ





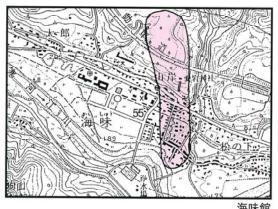
亀ヶ崎城跡調査対象区





間沢館近景 (西〜)

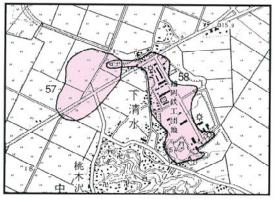
遺跡地名表 位置図・図版6 (県土木事業関係遺跡・教育庁関係遺跡)



海味館



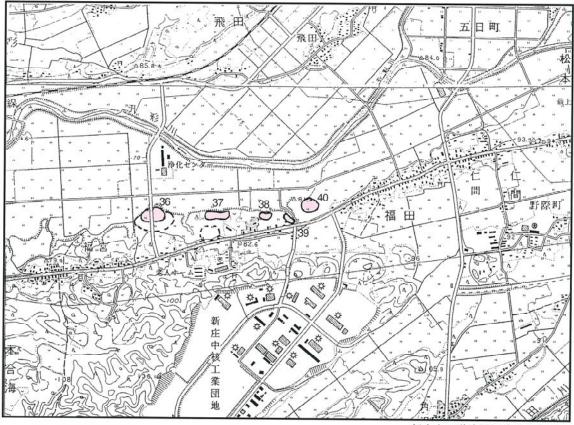
海味館近景 (東〜)



玉作3・出張坂城

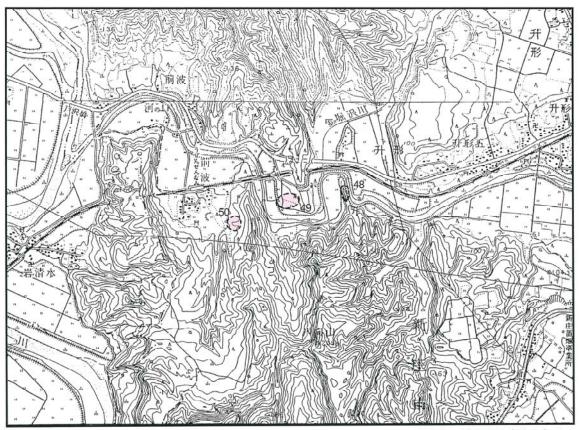


玉作3・出張坂城近景(北〜)

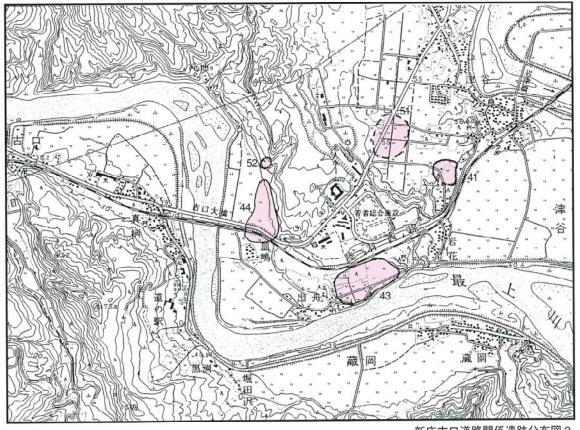


新庄古口道路関係遺跡分布図1

遺跡地名表 位置図·図版7 (国土交通省事業)



新庄古口道路関係遺跡分布図2



新庄古口道路関係遺跡分布図3

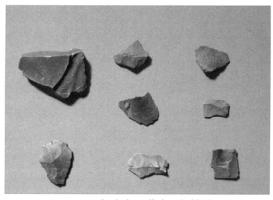
遺跡地名表 位置図·図版8 (国道交通省事業)



新庄古口道路可能性地1(南東〜)



新庄古口道路可能性地 2 (西〜)



新庄古口道路可能性地1出土石器



新庄古口道路可能性地2出土石器



新庄古口道路可能性地3(福宮公民館付近南〜)



新庄古口道路可能性地 4 (西〜)



新庄古口道路可能性地5(東〜)



新庄古口道路可能性地 6 (西〜)



タテ遺跡遠景 (北東〜)



新庄古口道路可能性地7(南西~)



新庄古口道路可能性地 8 遠景(西~)



皿嶋遺跡近景(西北〜)



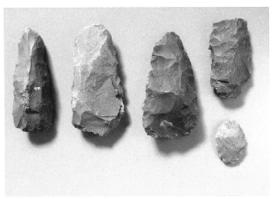
出舟遺跡遠景 (西~)



皿嶋遺跡採集遺物



出舟遺跡採集縄文土器



出舟遺跡採集石器



出舟遺跡採集石器 (石篦)



出舟遺跡採集石器 (石錘)



出舟遺跡採集須恵器



出舟遺跡採集土師器・須恵器



出舟遺跡採集須恵器



出舟遺跡採集須恵器





遺跡地名表 位置図・図版11 (国道交通省事業)



八幡原窯跡推定地遠景(北西~)



八幡原1遺跡近景(東南〜)



八幡原2遺跡近景(東〜)



高田遺跡近景 (北東〜)



八幡原1遺跡採集須恵器



八幡原1遺跡採集須恵器



八幡原1遺跡採集須恵器



高田遺跡採集遺物

2 試堀調査の概要

(1)西山遺跡(遺跡番号1652)

所 在 地 鶴岡市大字添川字西山

調査員高橋敏

調査期日 平成18年11月14日

起 因 事 業 中山間地総合整備事業(ぶじの里東部地区)

遺跡環境 出羽丘陵の西麓に位置する。標高は53mを測り、地目は樹園地・畑地である。

試 掘 区 遺跡範囲内の農道拡張部分を調査した。

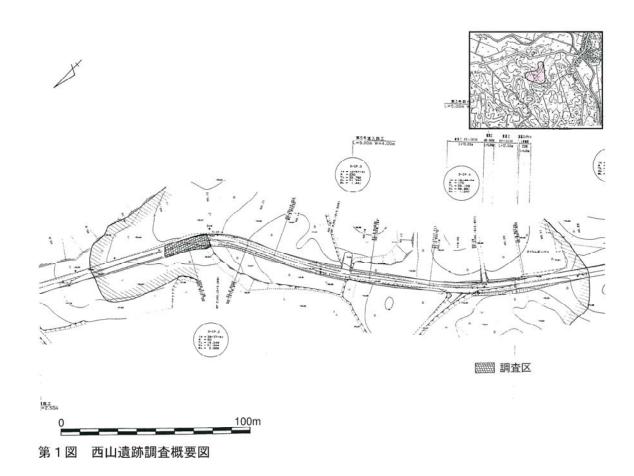
試 掘 方 法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層 まで掘り進めながら、部分的に手掘りにより遺構遺物の検出及び精査を行い、検出した遺 構遺物の記録保存を行った。

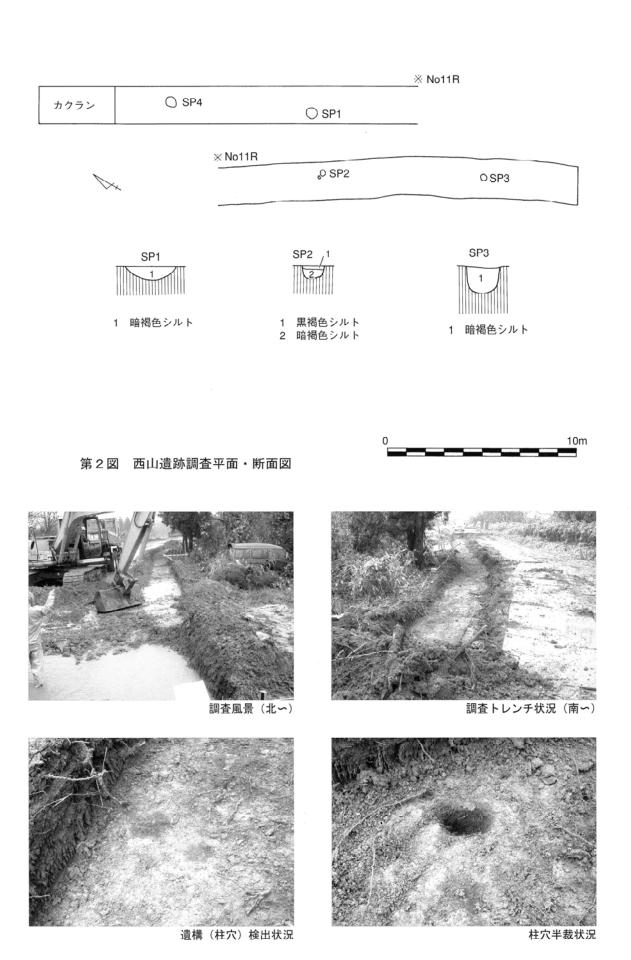
試掘面積 80㎡

検出遺構 ピット4基

出土遺物 なし

所 見 (財) 山形県埋蔵文化財センターによる発掘調査時に未買収地だった部分について立会調査を実施した。表土から30cmほどで黄褐色粘土の地山になり、柱穴と思われるピット4基を確認し、精査した。表土除去中、遺構精査中の遺物の出土はない。





図版 1 西山遺跡

(2) **植ノ山1遺跡**(平成15年度新規登録)

所 在 地 上山市大字小倉字植ノ山

調 査 員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年10月10日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業(鴨谷地地区)

遺跡環境 蔵王山西側山腹の緩やかな平坦地に位置する。標高は415mを測り、地目は水田・畑地である。事業区域は平坦地を削平して造成した水田である。

試 掘 区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ2ヶ所を設定した。

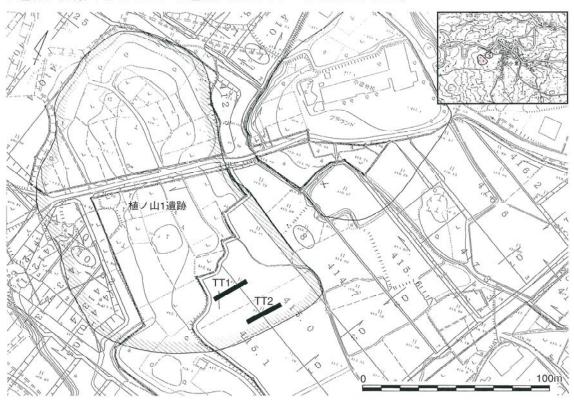
試 掘 方 法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 80㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

所 見 TT1では現耕作土、床土の下に黒色土が厚く堆積しており、その下に 淡黄褐色粘土層が見られた。TT2では現耕作土、床土の下で地山とみられる橙褐色土層 を検出した。地山面は西側に向かって傾斜しており、TT1とTT2の西側はかっての沢 筋にあたると考えられる。両トレンチともに遺構遺物は確認できなかった。以前の水田造 成において遺構面は削平し、消失しまったとみられる。ただ丘陵上の畑地付近は縄文時代 の遺物が採集できることから遺構が残されている可能性がある。



第3図 植ノ山1遺跡調査概要図



遺跡遠景 (南東〜)

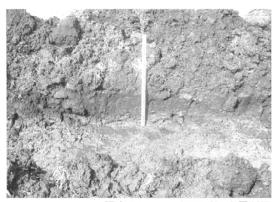




調査トレンチ (TT1) 土層断面



トレンチ調査状況(南〜)



調査トレンチ (TT2) 土層断面

図版2 植ノ山1遺跡

(3) 葎田 2 遺跡

所 在 地 最上郡鮭川村石名坂宇葎田

調査員阿部明彦高橋敏

調査期日 平成18年5月9日 平成18年10月23日・24日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業(鮭川左岸地区)

遺跡環境 鮭川左岸直近の自然堤防上に立地し、その主要部には台地縁辺を利用して構築された中世前期の周濠を伴う一辺80m~100m 規模の方形館が占地している。濠跡は伝世したと考えられる畦畔等区画から、上幅で5~10m内外と推定される。

調 査 区 5月の調査では事業区内に当初計画されたポンプ場予定地が中心、後の1 0月の調査では、主として館跡周辺の東側を対象とした。

調 査 方 法 $1.5 \times 10 \text{m}$ ないし $1.5 \times 5 \text{m}$ の試掘坑を 1.0 箇所に設け、重機で表土を剥いだ後、人力で掘下げと面整理・面精査を実施している。

調 査 面 積 30㎡ (5月) 108㎡ (10月) 計138㎡

検 出 遺 構 柱穴・溝跡・土坑等

出土遺物 土師器、須恵器、青磁、主体は土師器類で、須恵器や青磁は少量である。

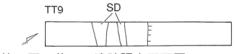
所 見 遺跡は低位の段丘面に位置し洪水等の災禍からは逃れ難い立地環境にあるが、10世紀代の古代集落や中世前期の方形館などの在り方は当地の歴史を考える上で重要な資料と言える。なお、遺構覆土中には十和田 a と思われる火山灰を含むものが認められた。





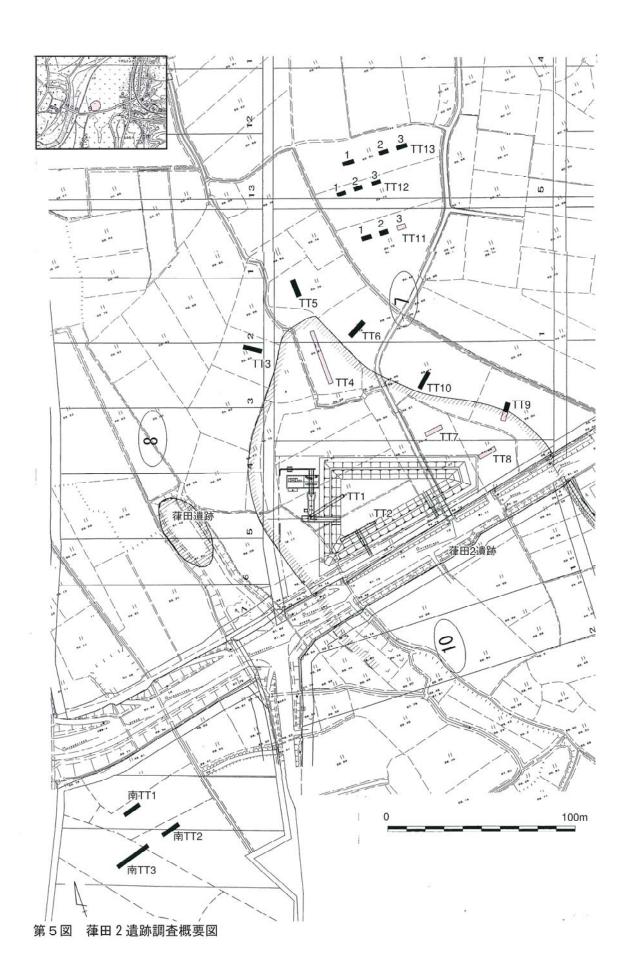


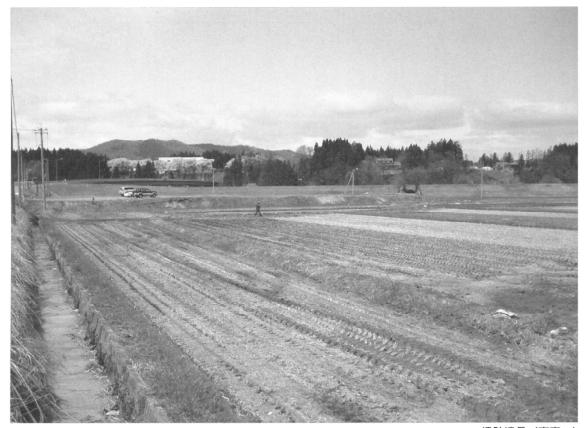




第4図 葎田2遺跡調査平面図







遺跡遠景 (南東〜)



調査風景 (TT7)



TT8調査状況



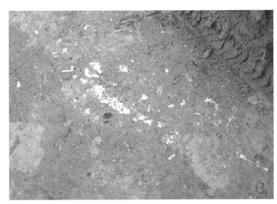
遺構(柱穴)検出状況



遺物(須恵器)検出状況



T T 4 調査状況(北〜)



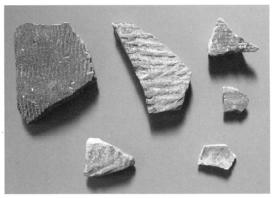
TT8検出白色火山灰(十和田a)



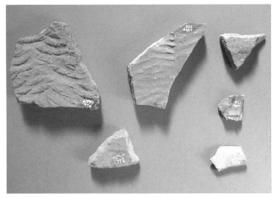
通称「堀田」現況(南〜)



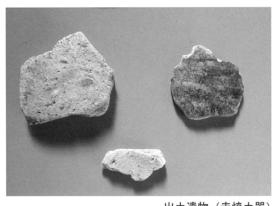
TT3土層断面(南~)



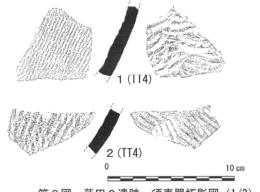
出土遺物 (須恵器)



同左 裏面



出土遺物(赤焼土器)



第6図 葎田2遺跡 須恵器拓影図 (1/3)

図版4 葎田2遺跡(2)

(4)野村清水遺跡(遺跡番号1746)

所 在 地 鶴岡市大字東堀越字郷の浜

高橋 敏 調査員

調査期日 平成18年9月7日(表面調査) 11月17日(試掘調査)

起因事業 ふじの里東部地区中山間地域総合整備事業(東栄ため池建設)

遺跡環境 出羽丘陵の西麓に位置する。標高は55mを測り、地目は樹園地・畑地・ 荒蕪地である。

試 掘 区 事業予定地の遺跡範囲に試掘トレンチ5ヶ所・試掘坑を6ヶ所を設定し た。

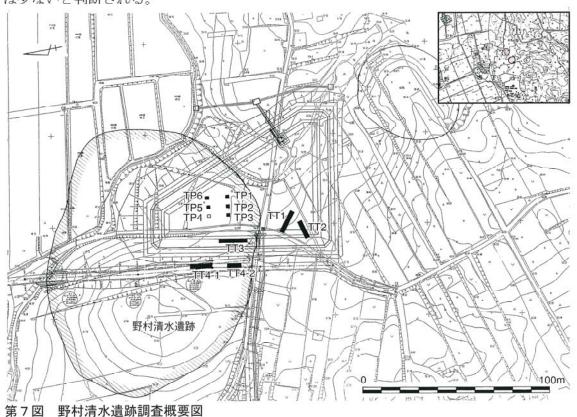
計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含 試掘方法 層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確 認を行った。

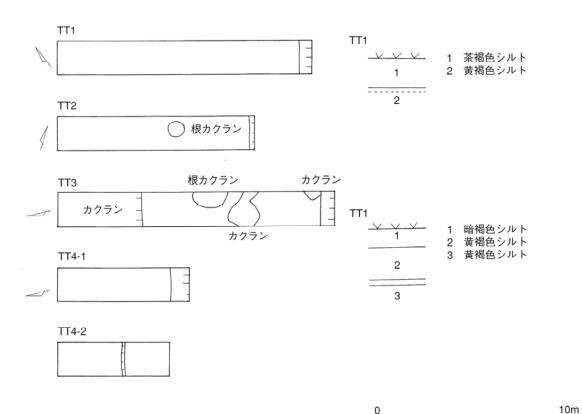
試掘面積 88㎡

検出遺構 TP4から時期不明のピット

出土遺物 なし

所 見 ため池用地及び農道にかかる部分について調査した。TT3から産業廃 棄物が埋設されているのが確認されたほかは遺構遺物は確認されない。TP4から時期不 明のピット1基、TP5・TP6から現代のピット痕1基を検出したが、遺物は出土して いない。野村清水遺跡の事業範囲に掛かる範囲については、縁辺部であり工事による影響 は少ないと判断される。

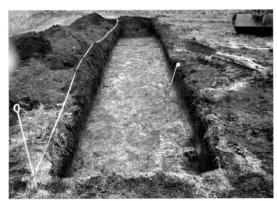




第8図 野村清水遺跡調査平面図·断面図



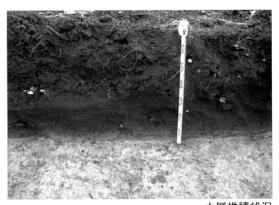
遺跡近景 (南〜)



トレンチ調査状況



遺構(柱穴)検出状況



土層堆積状況

図版 5 野村清水遺跡

(5) **上の寺遺跡**(平成 15 年度新規登録)

所 在 地 山形県寒河江市慈恩寺上の寺

調查員阿部明彦高橋敏

調査期日 平成18年11月16日

起 因 事 業 農免農道整備事業 (寒河江中央地区)

遺跡環境 慈恩寺境内から東へ約1km、緩斜面となる山麓一帯に大小の曲輪群からなる上の寺遺跡が所在する。これら曲輪群の中心は規模の大きな土塁を伴う「聞持院」跡と目される通称「寺屋敷」部分と推測され、平成17年度の調査によって寺跡に係わる建物跡や中国元代の青磁花瓶などが見つかっている。

調査区 鬼(御荷)越坂の手前から分岐して上の寺へと向かう通称「箕輪道」の基点部分西側に沿う計画路線内を主な調査対象区とした。

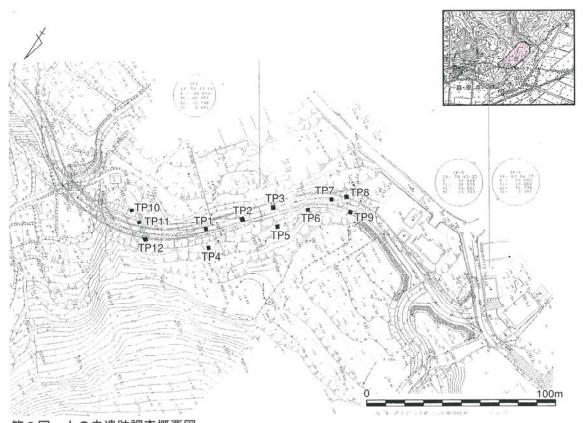
調 査 方 法 1×1 m の試掘坑を 1 2 箇所設け、人力で掘下げと面整理・面精査を実施した。

調査面積 12㎡

検 出 遺 構 整地を伴う南北方向に細長い2~3段の曲輪群

出土遺物なし

所 見 東向きの斜面に2~3段で南北方向に走る曲輪群が認められ、明らかに人 為的な所産と判断された。試掘結果から、山側の表土が削られ、谷側の斜面上に盛り上げ ることで平坦面を形成していることを確認できたが、その造成時期は明確でない。



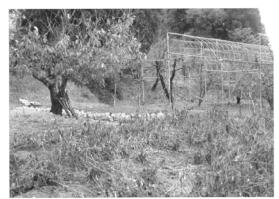
第9図 上の寺遺跡調査概要図



調査対象区遠景(東〜)



調査風景 (南〜)



上段の帯曲輪 (南東〜)



試掘坑 (曲輪盛土部分)



試掘坑断面(TT5)

図版 6 上の寺遺跡

(6)上野遺跡

所 在 地 山形県南陽市大字上野字上野

調 査 員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年10月16日

起 因 事 業 農地環境機能整備事業(上野地区)

遺跡環境 南陽市街から北西 1.5 km、標高 235m の高台に位置する縄文時代〜中世までの複合遺跡。地目は果樹園、畑地、水田である。

調 査 区 農道の新設範囲内を対象として南北方向のトレンチ5本を入れた。

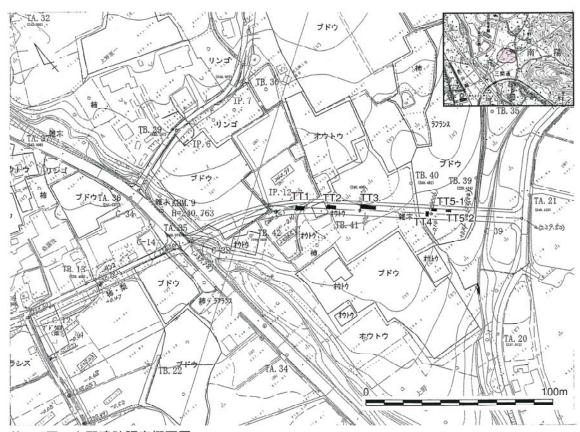
調査方法 重機を用いてトレンチ内の表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施して遺構・遺物の分布を確認した。

調査面積 47㎡

検出遺構 なし

出土遺物なし

所 見 調査地区は上野遺跡の東側にあたり、遺跡中心部から続く一連の段丘面の 東端に位置している。調査は重機の入れる範囲内で限定的に行い、計画路線に沿うトレン チ5本を設定して行っている。その結果、いずれのトレンチでも遺構・遺物は検出されな かった。また、TT4・5の範囲内では地山を掘り込んで設置された葡萄棚のアンカーが 多数認められ、これまでにかなり撹乱や削平の行われている様子が確認できた。



第10図 上野遺跡調査概要図



調査区全景(北〜)



TT 2 トレンチ全景 (西〜)



TT 2北側壁面(南〜)



TT 3全景 (西∽)



TT 3 北側壁面(南〜)

図版7 上野遺跡

(7)泉興野1遺跡(平成18年度新規登録)

所 在 地 酒田市大字泉興野字

調 查 員 阿部明彦 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年11月27日~28日

起 因 事 業 主要地方道酒田松山線改築事業(飛鳥バイパス)

遺跡環境 酒田市飛鳥の市街地の北側約300mの自然堤防状の高まりに位置する。標高は9mを測り、地目は水田・畑地である。

試 掘 区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを4ヶ所設定した。

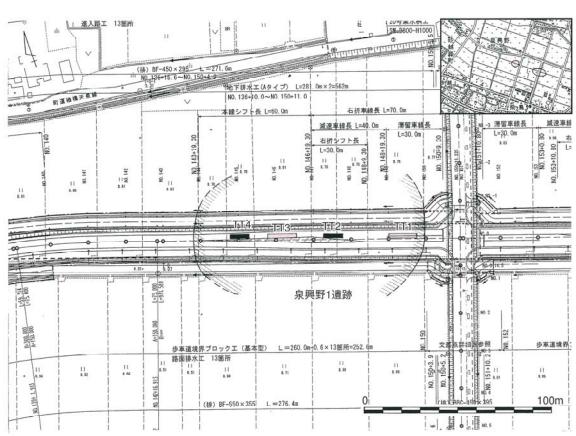
試 掘 方 法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 75㎡

検出遺構 TT1から ピット 土色変化

出土遺物 TT3より須恵器片 赤焼土器片

所 見 現地は水田・転作のまめ畑となっている。設定したトレンチの内TT1 から土色変化と時期不明のピット1基を検出した。TT3から土器片が出土した。また道路予定地範囲内の畑地から遺物が採集された。堆積土の状況から過去の圃場整備等により大部分が削平されたものと考えられる。



第11図 泉興野1遺跡調査概要図

(8)泉興野2遺跡(平成18年度新規登録)

所 在 地 酒田市大字泉興野字

調 查 員 阿部明彦 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年11月27日~28日

起 因 事 業 主要地方道酒田松山線改築事業(飛鳥バイパス)

遺跡環境 酒田市飛鳥の市街地の北側約300mの自然堤防状の高まりに位置する。 標高は9mを測り、地目は水田・畑地である。

試 掘 区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを4ヶ所を設定した。

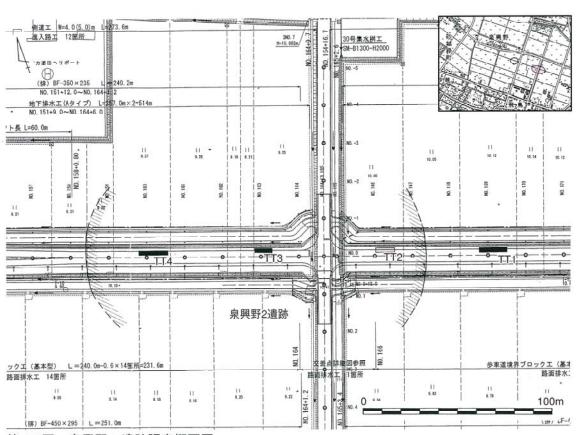
試 掘 方 法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 72㎡

検 出 遺 構 TT2から溝状遺構

出土遺物 なし

所 見 現地は水田・転作のまめ畑となっている。設定したトレンチの内TT2 から溝状遺構1条を検出した。しかし各トレンチから遺物は出土しない。堆積土の状況か ら過去の圃場整備等により大部分が削平されたものと考えられる。



第12図 泉興野2遺跡調査概要図

(9)天神堂大坪遺跡(平成18年度新規登録)

所 在 地 酒田市大字砂越字大坪

調 査 員 阿部明彦 高橋 敏 丸吉繁一

調 查期 日 平成18年11月27日~28日

起 因 事 業 主要地方道酒田松山線改築事業(飛鳥バイパス)

遺跡環境 酒田市飛鳥の市街地の北側約300mの自然堤防状の高まりに位置する。 標高は9mを測り、地目は水田・畑地である。

試 掘 区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを4ヶ所設定した。

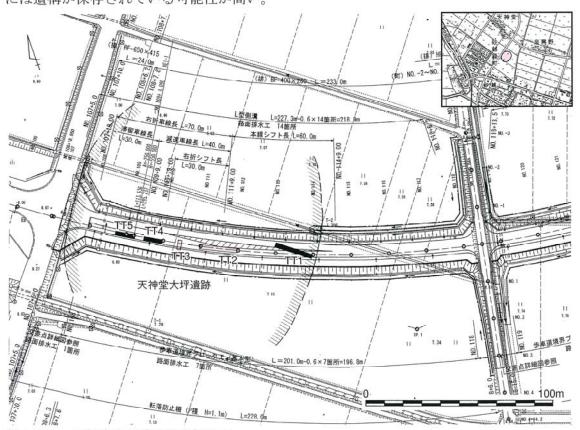
試 掘 方 法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含 層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 97.5㎡

検出遺構 TT2 TT3から ピット (時期不明)

出土遺物 TT2 TT3より須恵器片 赤焼土器片

所 見 現地は水田・転作のまめ畑となっている。設定したトレンチの内2ヶ所から須恵器片・赤焼土器片、時期不明の杭が出土した。TT2、TT3から時期不明のピットが検出された。また道路予定地範囲内の畑地から多くの遺物が採集された。過去の圃場整備等により大部分が削平されたものと考えられるが、北側に位置する大宰府神社付近には遺構が保存されている可能性が高い。



第13図 天神堂大坪遺跡調査概要図



天神堂大坪遺跡近景 (西〜)



泉興野1遺跡 TT1 全景(西〜)



泉興野2遺跡 TT2 全景 (西〜)



泉興野2遺跡 TT3 土層断面(南〜)



天神堂大坪遺跡 TT2 全景 (西〜)

図版8 泉興野1・2遺跡, 天神堂大坪遺跡



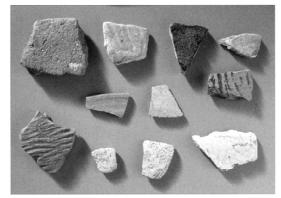
泉興野1遺跡近景(東〜)



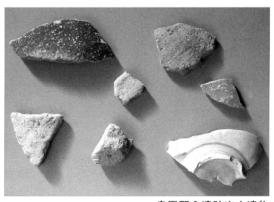
図版9 泉興野1・2遺跡



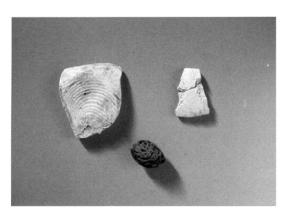
泉興野1遺跡出土遺物



泉興野1遺跡出土遺物

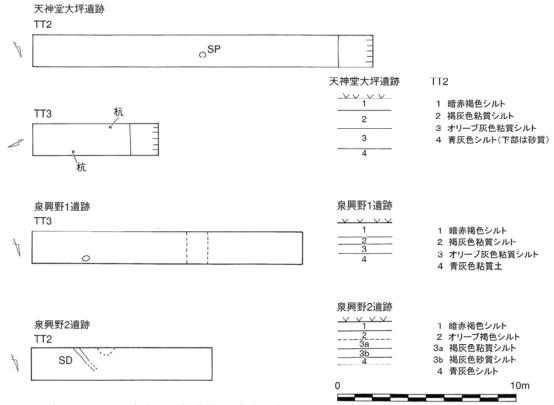


泉興野2遺跡出土遺物



天神堂大坪遺跡出土遺物

図版 10 泉興野 1・2遺跡, 天神堂大坪遺跡



第14図 泉興野1·2遺跡,天神堂大坪遺跡調査平面·断面図

(10)野田蕨手刀出土地 1

所 在 地 山形県東根市大字野田 302

調 査 員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年5月30日 11月9日・10日

起 因 事 業 一般県道長瀞野田線道路改良工事

遺跡環境 調査地は東根市郡山と野田の境界付近に位置している。郡山は古代村山郡 の郡衙擬定地ともなっており、付近には平安時代の野田中島遺跡も近接している。

調 査 区 5月の調査では国道 287号と交叉する地点の国道を挟む南北 2 地点に TT 1 ~TT 4 のトレンチを設定した。また、11 月の調査では市道野田 1 号線から北側の路線敷部分を対象として、トレンチ TT 1 ~TT 6 、試掘坑 TP 1 ~11 を設定して調査している。

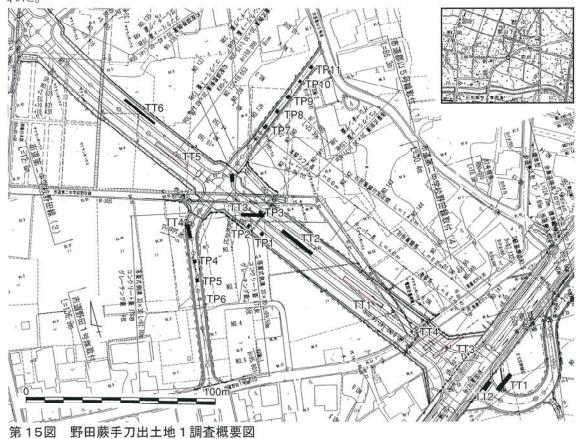
調 **査 方 法** トレンチは重機を用いて表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施 して遺構・遺物の分布を確認した。試掘坑は掘下げ、面精査共に人力で行っている。

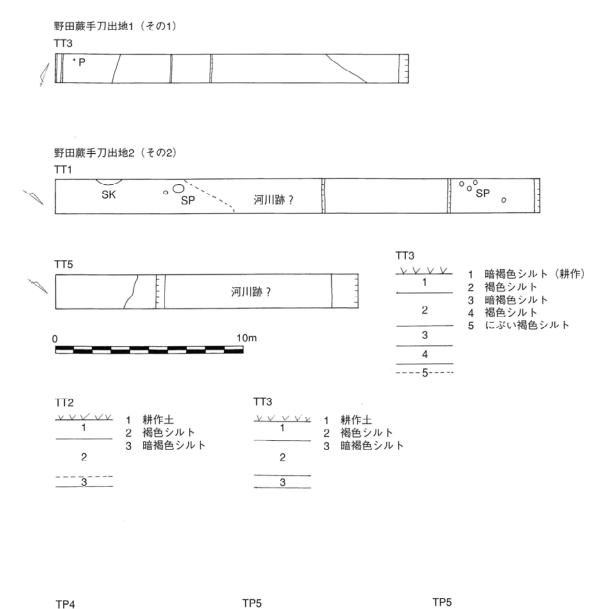
調 **查 面 積** 72.8 m² (5月調查) 161 m² (11月調查)。

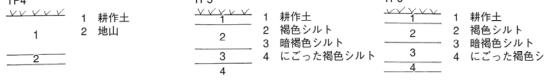
検 出 遺 構 11月調査 TT1 (柱穴3)、TT5 (河川跡1)、TP6 (柱穴1)。

出 土 遺 物 5月調査 TT 3 (須恵器片 1)、TT 4 (土師器片 1)、11 月調査 TT 5 (土師器片、火山灰等)。

所 見 市道野田1号線に近い TT1の南半部分では遺物等の出土はなかったものの、柱穴若干が認められた。また、TT5では河川跡に流れ込んだ赤焼土器等の遺物が見られた。









第16図 野田蕨手刀出土地1調査平面図・断面図



調査対象区遠景 (南東〜)



調査風景 (東〜)



TT3須恵器出土状況



TT3土層断面(南〜)



TT4河川跡検出状況

図版 11 野田蕨手刀出土地 1 (1)



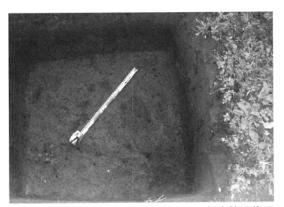
調査区近景(南〜)



TT2調査状況(北〜)



支線部分の試掘状況 (北〜)



TP6柱穴検出状況



TP5土層断面

図版 12 野田蕨手刀出土地 1(2)



TT4調査状況 (南〜)



T T 6 調査状況 (南東〜)



T T 6 調査状況 (西〜)



TT6河川跡底面の焼土層



TT6土層観察(南〜)

図版 13 野田蕨手刀出土地 1 (3)



支線との交差点部分の調査(東〜)



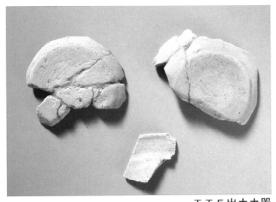
支線部分の試掘状況(南西〜)



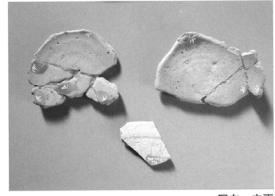
支線部分の試掘坑(TP7)



支線部分の試掘坑 (TP8)



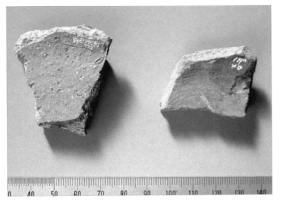
TT5出土土器



同左 内面



第1次調査TT3出土須恵器



同左 内面

図版14 野田蕨手刀出土地1(4)

(11) **草伊賀B遺跡** (分7-24-22)

所 在 地 村山市大字名取字草伊賀

調 査 員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年5月10日

起 因 事 業 一般県道東根長島線道路改良事業

遺跡環境 楯岡の市街地の西方、河島山の東麓縁に位置する。標高97m、地目は水田・畑地となっている。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所、試掘ピット2ヶ所を設定。

試掘方法 重機+人力で試掘調査を行った。

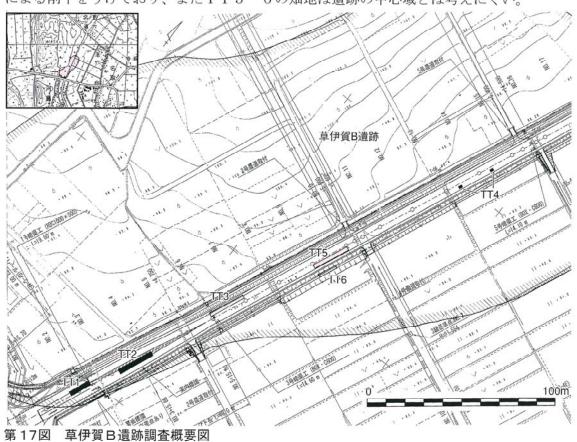
試掘面積 112.5 m²

検 出 遺 構 なし

出土遺物 TT3から須恵器片、TT5・TT6から土師器片・須恵器片が出土

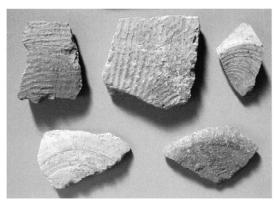
時 代 平安時代

所 見 TT1・2・4を設定した箇所は水田となっており、固くしまった黄褐色シルトの地山層となっている。TT3では整地土層上面の撹乱から須恵器片が出土、TT5・6の地点は周囲よりも2mほど高い位置にあり表面踏査では須恵器片土師器片が採集された。試掘したが顕著な遺構を確認することはできなかった。出土した遺物は東側の丘陵からの流れ込みと考えられる。試掘を実施した路線の範囲については以前の耕地整理による削平をうけており、またTT5・6の畑地は遺跡の中心域とは考えにくい。

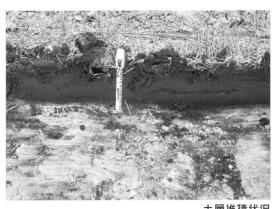




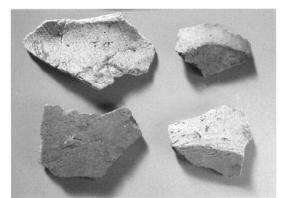
TT 3トレンチ全景(南〜)



出土遺物 (須恵器)

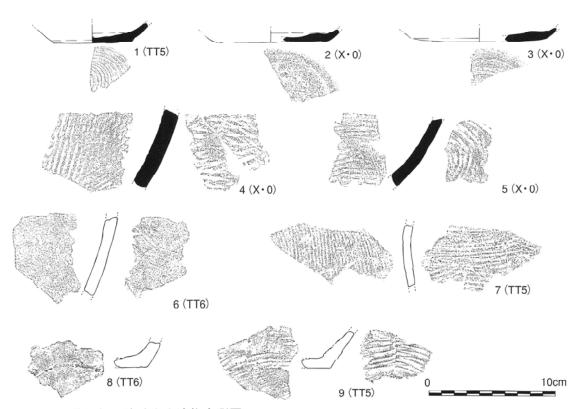


土層堆積状況



出土遺物 (土師器)

図版 15 草伊賀 B遺跡



第18図 草伊賀B遺跡出土遺物実測図

(12) 石橋遺跡 (平成18年度登録)

所 在 地 天童市大字貫津字石橋

調 査 員 高橋 敏 丸吉繁一

調 査 期 日 平成18年6月1日(試掘) 11月6日(立会)

起 因 事 業 住宅団地造成事業(天童市貫津地区)

遺跡環境 天童市の市街地南方、約2kmの平坦地の自然堤防上に立地する。標高は115mを測る。地目は水田である。

試 掘 区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを7ヶ所を設定した。

試 掘 方 法 重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めなが ら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 228㎡

検 出 遺 構 遺構確認面は地表面下40~110 cm。

T T 1 $-1 \sim 3$	河川跡、	ピット、溝状遺構	T T 5	なし
TT2-1 \sim 3	河川跡、	ピット	T T 6	柱穴
$TT3-1 \cdot 2$	ピット		ТТ7	なし

TT4 ピット 落ち込み

出 土 遺 物 TT1~TT4から須恵器片・土師器片・陶磁器片が出土。TT5・TT6から土師器片が出土した。

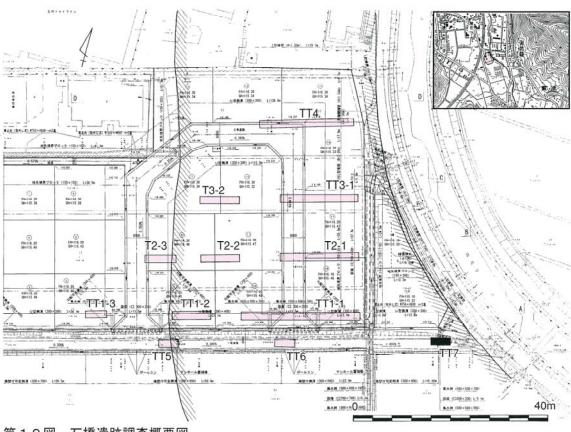
時 代 平安時代

所 見 住宅団地予定地及び農道拡幅工事予定地に設定した12本のトレンチのうち10木から柱穴や溝跡・河川跡と思われる土色変化が確認された。TT1-1の東端、地表面下80cmの深さで東西に幅7mにわたり河川跡の落ち込みを、河川跡の西ではピット2基を確認した。この河川跡内からは土師器片・須恵器片が多く出土した。TT1-2では中央部付近で土色変化を確認したが遺構かどうかは不明である。調査したトレンチのTT1~TT4から須恵器片・土師器片が出土した。立会調査を実施した農道部分は水田面より遺構の確認面が30cmほど上であり、水田面は以前の圃場整備により地山面が削平されている状況が窺えた。立会調査のトレンチからは柱穴1基と土師器の破片資料が検出された。遺跡範囲内の農道拡幅工事部分については発掘調査が必要である。

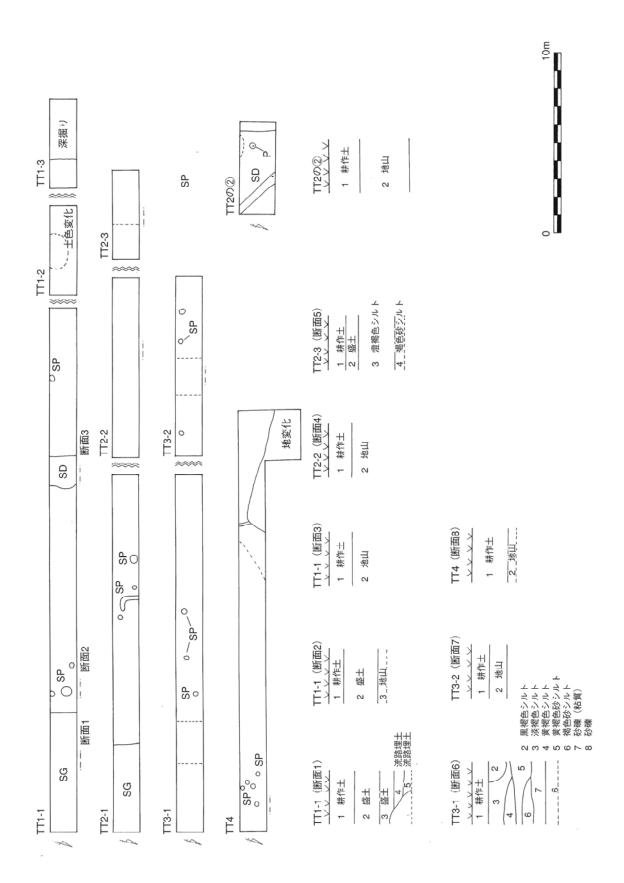


図版 1 6 石橋遺跡 (1)

遺跡近景(南西〜)



第19図 石橋遺跡調査概要図



第20図 石橋遺跡調査平面・断面図



遺跡近景 (西〜)



試掘調査状況 (西〜)



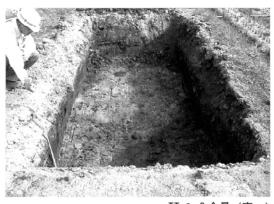
試掘調査 TT 1-1柱穴検出状況(東〜)



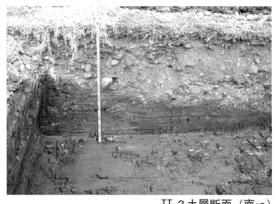
TT 1-1 柱穴検出状況(東〜)



道路予定地立会調査状況(南西~)



TT 2-3 全景 (東**∽**)



TT 3 土層断面(南~)



TT 2-1 柱穴検出状況

図版 1 7 石橋遺跡 (2)

(13)天矢場遺跡(平成18年度新規登録)

所 在 地 南陽市大字川樋字天矢場

調 查 員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年4月20日 9月21日

起 因 事 業 国道13号上山バイパス改築事業(中川工区)

遺跡環境 赤湯の市街地の北東約6km、射撃場南側の小扇状地扇央部に立地する。標高は285mを測る。地目は畑地・樹園地・宅地である。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ11ヵ所設置。

試 掘 方 法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

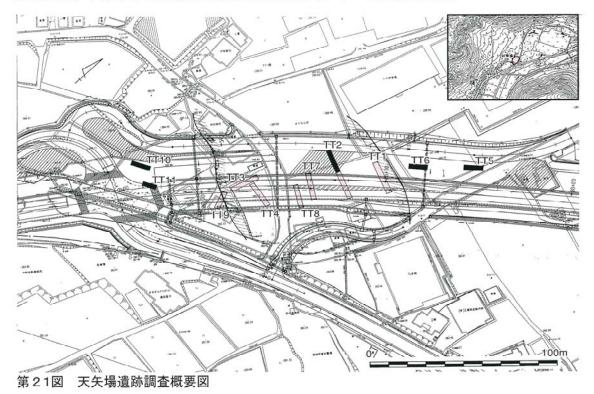
試掘面積 240 m²

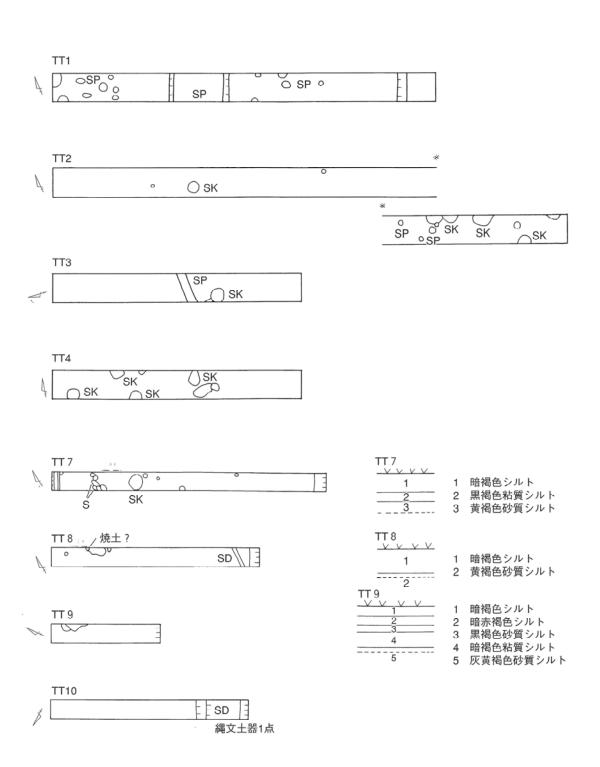
検 出 遺 構 TT1~TT9からピット・土壙・溝跡を検出。TT10・TT11から河川跡を検出した。

出 土 遺 物 TT1・TT2・TT5~TT8 から土師器片出土。TT11から縄文 土器片出土。

時 代 縄文時代·平安時代

所 見 設定したトレンチ11本のうち9本から柱穴や溝跡・土壙が検出された。 表土下20cm~30cmで遺構を確認することができ、西側で浅く、東側ほど深くなる傾向が認められる。 $TT10 \cdot TT11$ では自然の河川跡と思われる大きな落ち込みが確認された。平成19年度(財)山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。







第21図 天矢場遺跡調査平面図·断面図



遺跡近景 (西〜)



調査風景(東〜)

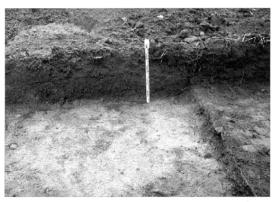
図版 18 天矢場遺跡 (1)



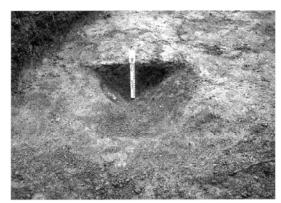
TT 2 遺構検出状況(西〜)



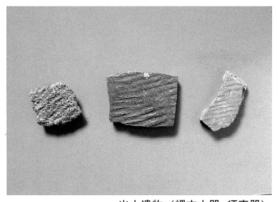
TT 4全景 (西∽)



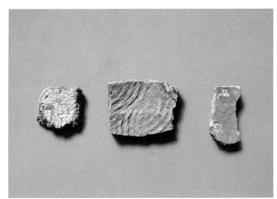
TT 2土層断面(南〜)



TT 4 検出土坑 (東〜)

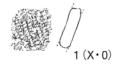


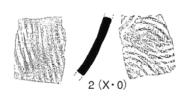
出土遺物 (縄文土器・須恵器)

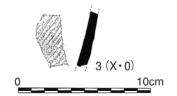


同左内面

図版 19 天矢場遺跡(2)







第23図 天矢場遺跡出土土器拓影図

(14) 山形城三ノ丸 (201-002)

所 在 地 山形市旅籠町

調 査 員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年12月7日 8日

起 因 事 業 一般国道112号霞城改良(旅篭町交差点改良)

遺跡環境 山形市街地の中心、山形城二ノ丸の北東に位置する。標高は125mを 測る。地目は宅地である。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ6ヶ所を設定した。

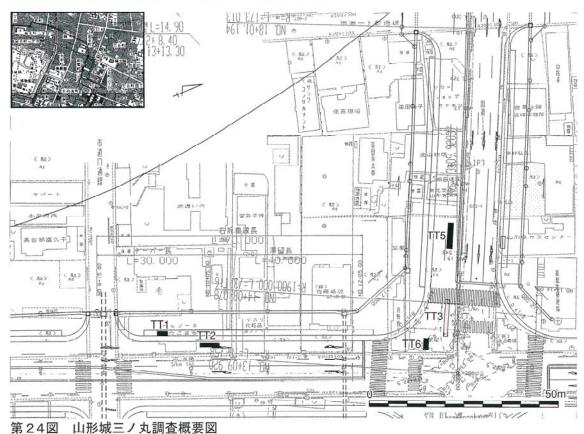
試 掘 方 法 重機及び人力で試掘調査を実施した。宅地・商業地のため水道管・ガス 管等へ配慮し、地中の状況を慎重に観察しながら調査した。

試掘面積 46.5㎡

検出遺構 TT3より時期不明のピット

出土遺物 TT3 TT4より陶磁器片

所 見 TT1・2からマンションのコンクリート基礎が検出された。TT2の 東側からは現表土の約 1.3m~1.4m で暗黄褐色砂の地山面が確認され、時期不明のピット が3基検出された。精査したが遺物は出土しない。中層に近現代と思われる陶磁器片や焼 土及び炭を多量に含む層が観察されたが、明治以降の市内大火に由来すると考えられる。 工事予定地は山形城三ノ丸の範囲外と判断される。工事が山形城三ノ丸堀推定線また三ノ 丸内部へ入る場合は追加の試掘調査が必要である。



- 58 -



調査区近景 (北〜)



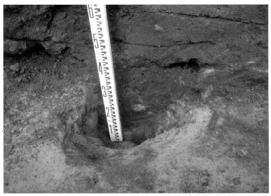
IT 3トレンチ完掘状況(東〜)



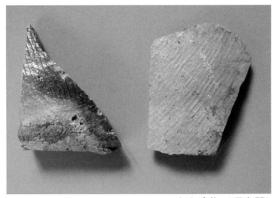
TT 5全景



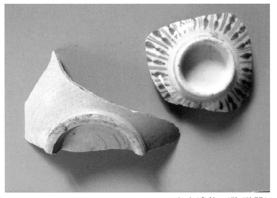
TT 3 土層断面



TT 3トレンチ検出柱穴



出土遺物 (須恵器)



出土遺物 (陶磁器)



出土遺物(磁器)

図版20 山形城三ノ丸

(15) 達磨寺遺跡

所 在 地 山形県東村山郡大字達磨寺字達磨寺

調 査 員 阿部明彦 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年8月31日

起 因 事 業 須川 (下流部) 河川改修堤防拡張事業

遺跡環境 遺跡は須川が形成した左岸側の自然堤防上に立地していると考えられ、その範囲は南北 300m 以上、東西幅 150m ほどと推測される。これまでに、東北横断自動車道や河川改修事業を契機として2度の発掘調査が行われ、須川を利用した舟運に関連した古代と中世の遺跡内容が明らかにされている。

調 査 区 堤防の嵩上げによって拡幅が予定される河川敷内を調査対象とし、現堤防 東側の拡幅ラインに沿って幅 1.5m、長さ 35m のトレンチを設定した。

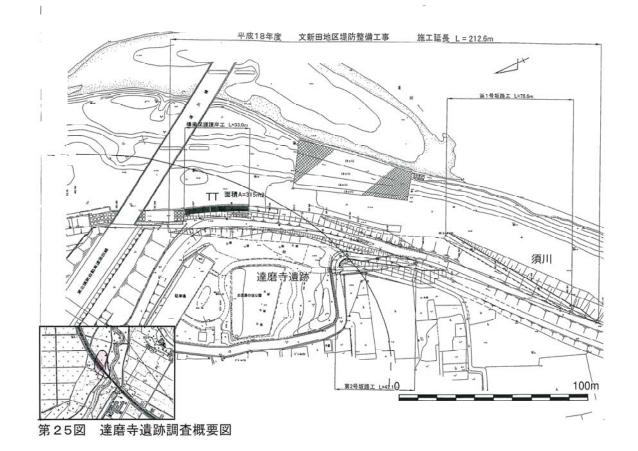
調 査 方 法 重機を用いてトレンチ内の表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施して遺構・遺物の分布を確認した。

調 査 面 積 52.5 m²

検出遺構 トレンチ北側端の部分に、幅40cm前後の溝跡1基を検出した。

出土遺物 須恵器破片1点。

所 見 トレンチ北側で検出された溝跡以南には何らの遺構も見当たらないことから、今回調査対象とした部分は達磨寺遺跡の南東端に当たると考えられる。





調査対象区近景(南〜)



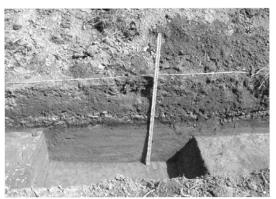
溝跡検出状況 (北〜)



調査トレンチ(南〜)



土層断面 (ゴミの埋立形跡)



深掘区の土層断面

図版 21 達磨寺遺跡

(16) 檜原遺跡(平成8年度登録)

所 在 地 南陽市大字西落合字檜原

調 査 員 阿部明彦 高橋 敏

調 查期 日 平成18年8月29日

起 因 事 業 国道113号線赤湯バイパス改築事業

遺跡環境 宮内の市街地南西約2km、上無川の自然堤防上に立地する。標高は222mを測る。地目は樹園地・畑地・水田である。

試 掘 区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを4ヶ所を設定した。

試 掘 方 法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

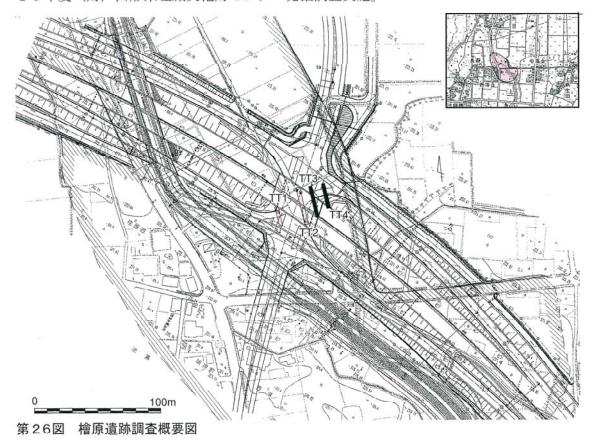
試掘面積 137 m²

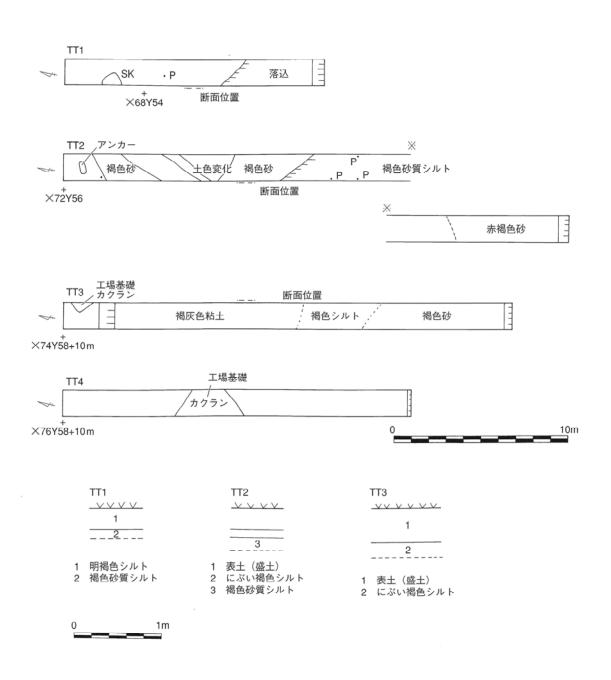
検 出 遺 構 TT1から土壙や河川跡を検出、TT2から溝跡や河川跡を検出。遺構 遺物確認面は30~50 c m。

出土遺物 TT1・TT2・TT3から土師器片が出土。

時 代 縄文時代・平安時代

所 見 設定した4本のトレンチのうち2本から土壙や溝跡・河川跡と思われる 土色変化が確認された。またTT1~TT3から土師器片が出土した。平成18年・平成 19年度(財)山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。





第27図 檜原遺跡調査平面・断面略図



遺跡近景(西〜)



TT 4調査風景(北〜)

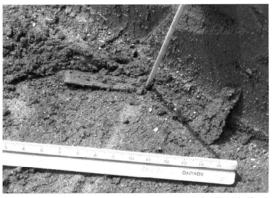
図版22 檜原遺跡(1)



Ⅲ 2トレンチ全景(北〜)



TT 3 トレンチ全景 (北〜)



TT 2 土師器出土状況





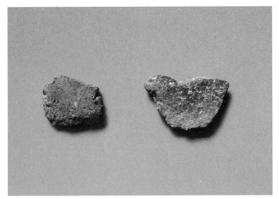
TT 2溝跡検出状況(東〜)



TT 3調査状況(北〜)



TT 1調査状況 (東〜)



出土遺物 (土師器)

図版23 檜原遺跡(2)

(17) 上大作裏遺跡(平成8年度登録)

所 在 地 山形県南陽市大字砂塚字大作裏

調 査 員 阿部明彦

調査期日 平成18年10月12日・13日

起 因 事業 国道113号南陽バイパス改築事業

遺跡環境 南陽市砂塚地区の北300mの河岸段丘に位置する。標高は220m内外で、地 目は樹園地、畑地、一部水田となる。

調 査 区 道路予定地内に係る旧畑地、宅地等を対象として 12 本のトレンチを設定した。

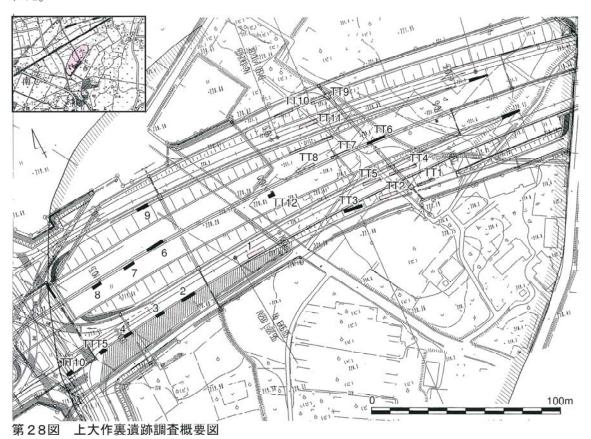
調査方法 重機を用いてトレンチ内の表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施して遺構・遺物の分布を確認した。

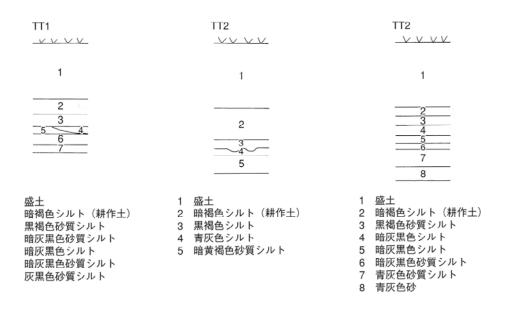
調 査 面 積 180 m²

検出遺構 トレンチTT1、TT2、TT5、TT7~TT9、TT11の7トレンチから土坑や柱穴群などの遺構を検出した。また、TT4 (縄文土器)、TT10 (平安時代の須恵器)からは遺構に伴って各々遺物も散見され、遺構の帰属時期が推測された。

出 土 遺 物 縄文土器・石器・須恵器・土師器

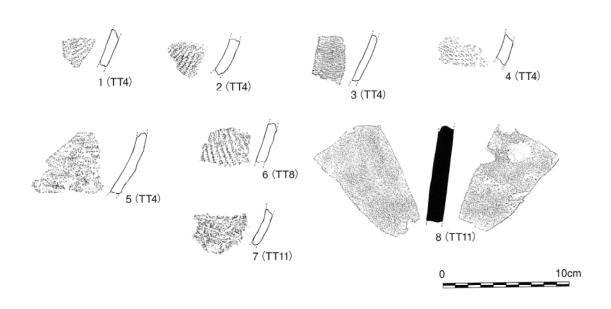
所 見 調査区域は遺跡の西半部に当たると考えられ、出土遺物から縄文と平安の複合遺跡と判断される。なお、TT4・TT5では地山と考えられた砂質土層の下から厚さ20cmほどのクロボクが検出され、遺跡南東域の一部は洪水等の影響を受けたと判断された。





0 2m

第29図 上大作裏遺跡調査断面図



第30図 上大作裏遺跡出土土器拓影図



調査対象区近景 (東〜)



TT1調査風景(西〜)



TT1検出柱穴



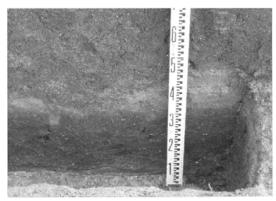
TT2トレンチ全景(西〜)



TT3検出遺構

図版24 上大作裏遺跡(1)





TT4トレンチ土層断面



T T 4 トレンチ全景(西〜)



TT8トレンチ全景(東〜)



T T 10 全景 (東〜)



T T 10 遺物出土状況



出土遺物(TT4他)



TT 10 出土遺物 (須恵器)

図版 25 上大作裏遺跡(2)

(18) **堤屋敷遺跡**(平成16年度登録)

所 在 地 米沢市大字万世町字堤屋敷

調査員阿部明彦高橋敏丸吉繁一

調 查 期 日 試掘調査 平成18年10月26日 27日

起 因 事 業 東北中央自動車道米沢 I C付帯工工事

遺跡環境 米沢市街地から南東約5kmの河岸段丘上に立地する。標高は270m を測る。地目は宅地・畑地・水田である。

試 掘 区 高速道路インターチェンジ建設区域内に13ヶ所のトレンチを設定した。

試 掘 方 法 重機により表土除去を行い、徐々に掘り下げてトレンチ壁底面の精査を 行い、遺構・遺物の確認を行った。

試 掘 面 積 173 m²

検 出 遺 構 ピット 柱穴

地表面下30cm~60cm

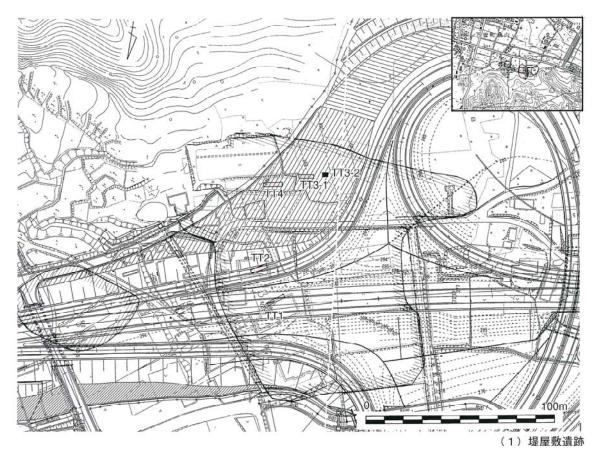
出 土 遺 物 縄文土器・土師器・須恵器

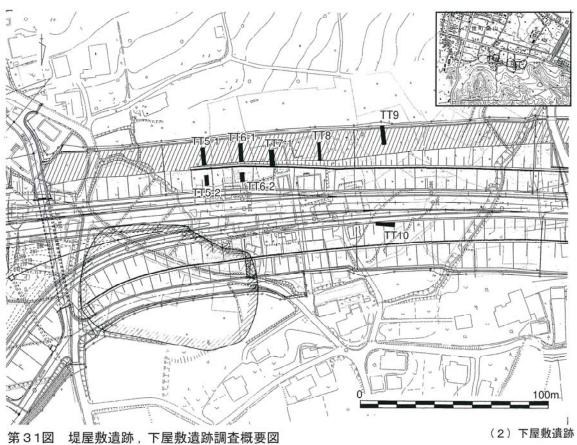
所 見 $TT1\sim TT4$ は堤屋敷遺跡周辺、 $TT5\sim TT10$ は下屋敷遺跡の周辺に設定した。 $TT1\cdot 2$ では柱穴や礎石が見られた。 $TT3\cdot 4$ は山裾にあたる部分である。TT3 では溝状遺構を検出、須恵器片が出土した。TT4 からは縄文土器片が出土した。 $TT5\sim TT9$ では遺構遺物は確認できなかった。

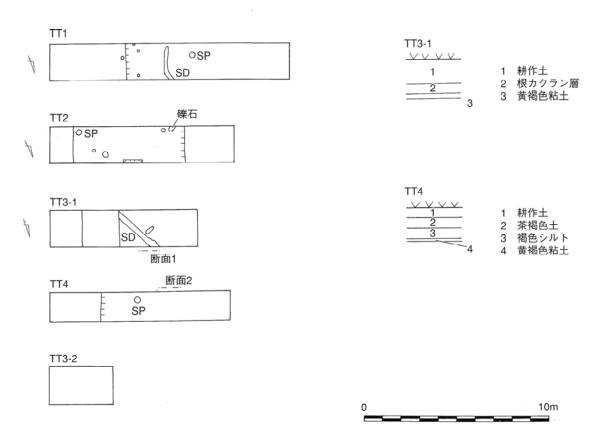


遺跡近景(南西~)

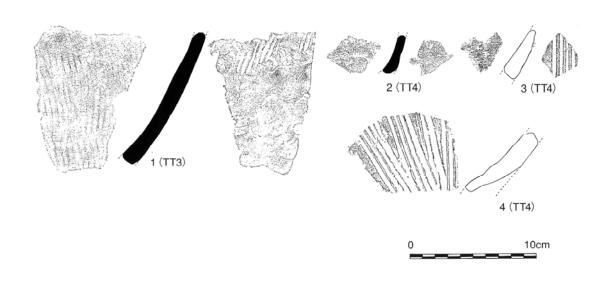
図版26 堤屋敷遺跡(1)







第32図 堤屋敷遺跡調査平面・断面略図



第33図 堤屋敷遺跡出土土器拓影図



遺跡遠景(東〜)



TT 1全景 (東∽)



TT 2 トレンチ全景 (東〜)



TT 1トレンチ土層断面(南〜)



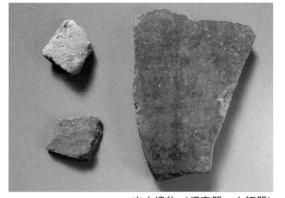
TT 7トレンチ全景 (北〜)



TT 4トレンチ土層断面(南〜)



出土遺物 (土師器他)



出土遺物(須恵器・土師器)

図版27 堤屋敷遺跡(2)

(19)川内袋遺跡

所 在 地 山形県鶴岡市大字五十川字川内袋

調 査 員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年10月25日

起 因 事 業 日本海沿岸東北自動車道(鶴岡〜温海間)

遺跡環境 県道から坂道を登った位置にある旧水田は、開田工事の際に大量の縄文時代の土器や石器が出土した地点である。その北側には緩い傾斜面が続き、その上面はやや広い平坦面となっているが、昨年実施した試掘の結果、遺物等の痕跡は少ないながら遺跡を構成する一画と判明している。

調 査 区 旧水田部分、水田に続く傾斜面地の旧畑地、斜面上の平坦面を各々調査対 象区として選定し、重機の入れる旧水田部分以外は人力による試掘調査を行った。

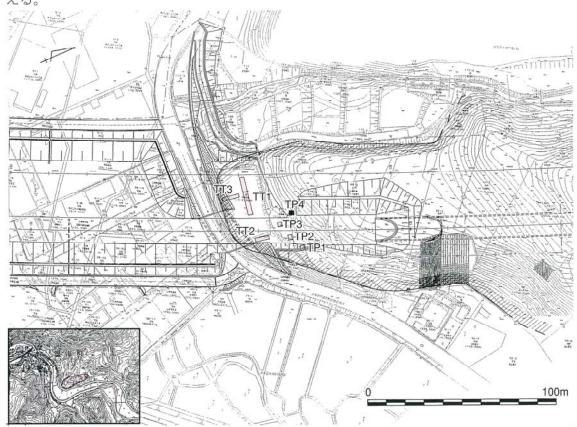
調 査 方 法 $1.5m \times 20m$ (TT1)、 $1.5m \times 10m$ (TT3)、 $1.5m \times 7m$ (TT2)のトレンチ3本を設けて遺構・遺物を確認した。また、斜面地には試掘坑 TP1-4を設けている。

調査面積 60㎡

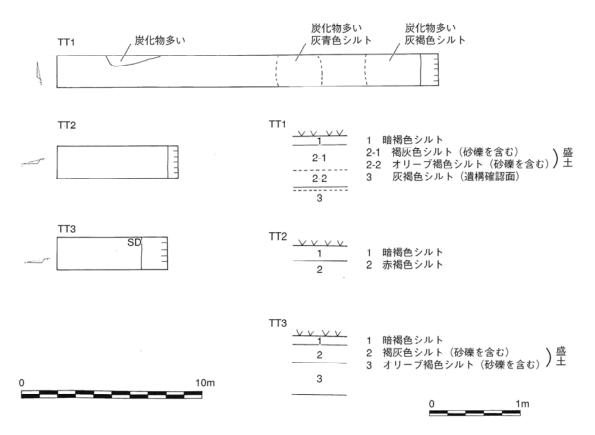
検 出 遺 構 柱穴、土坑、遺物包含層

出土遺物 縄文土器(前期後葉)、石器

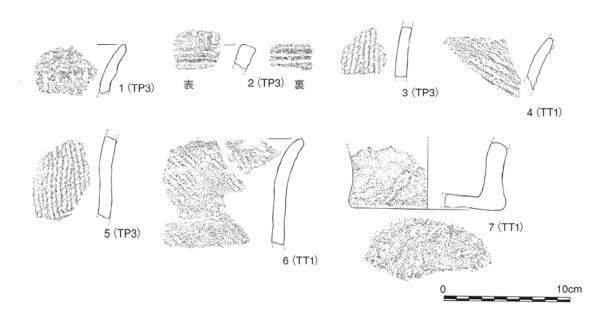
所 見 遺跡は南北に延びる尾根筋を占地し、開田された水田部分は包含層を形成 した地点と考えられる。集落本体は今の所不明であるが、上段の平坦面は候補の一つと言 える。



第34図 川内袋遺跡調査概要図



第35図 川内袋遺跡調査平面,断面図



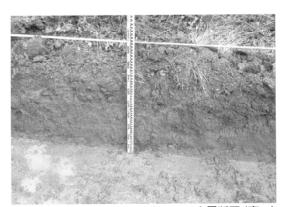
第36図 川内袋遺跡出土土器拓影図



遺跡遠景(南〜)



TT1トレンチ (東〜)



TT1トレンチ土層断面(南〜)



TT2トレンチ(南〜)



TT2トレンチ土層断面(南〜)



TT3トレンチ全景(南〜)



TT3トレンチ土層断面(西〜)



緩斜面の試掘状況



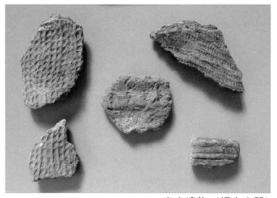
TP2試掘坑



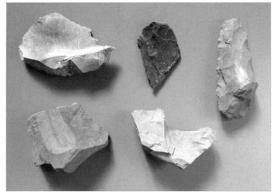
TP 3 試掘調査風景(南東〜)



TP 4調査状況(東〜)



出土遺物 (縄文土器)



出土遺物 (石器)

(20)**南田遺跡**(平成17年度登録)

所 在 地 鶴岡市大字清水新田字南田

調 査 員 阿部明彦 高橋 敏

調 查 期 日 試掘調査 平成18年10月12日

起 因 事 業 日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間

遺跡環境 清水新田集落の東側に位置し、清水新田遺跡の南東に隣接している。遺跡立地は自然堤防上と考えられるが、調査対象域の東端には泥炭層の広がりが認められることから、調査域は自然堤防と後背湿地との境界付近に位置していると判断できる。

試 掘 区 高速道路センターラインNoSTA301と301+20を結ぶライン を基準として、西側に $10m \cdot 20m$ それぞれ離れたTT1とTT2と東に10m離れた TT3の3本のトレンチを設定し、調査を行った。

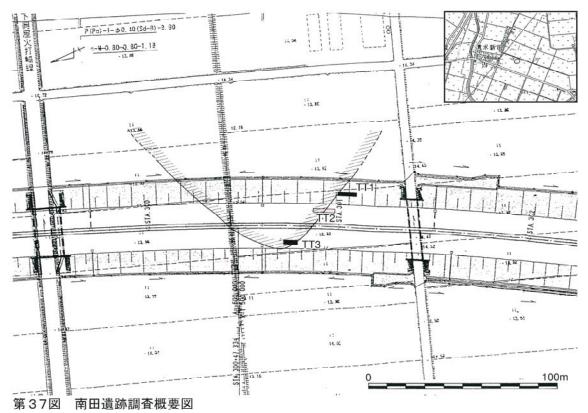
試 掘 方 法 重機により表土除去及び掘削深度まで掘り進めながら部分的に手掘りで トレンチ壁面及び底面の精査を行い、遺構・遺物の確認を行った。

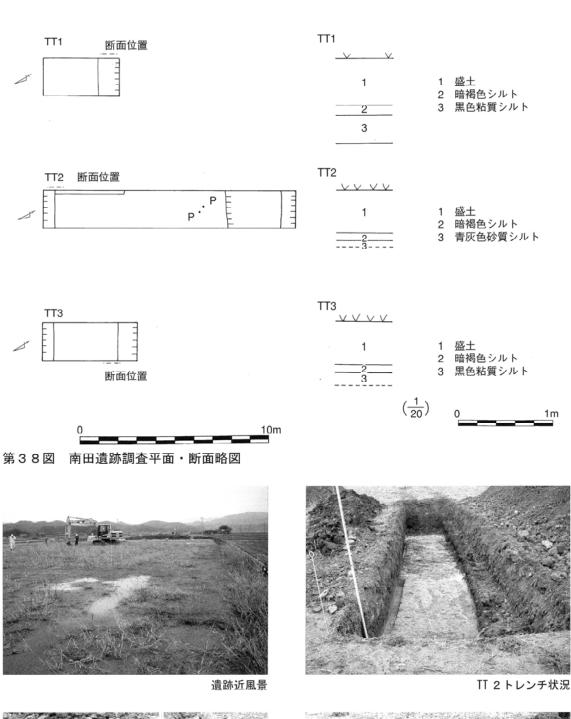
試掘面積 46㎡

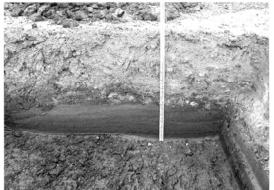
検出遺構 なし

出 土 遺 物 古墳時代の土器 奈良・平安時代の土器

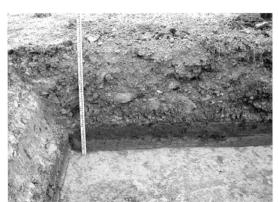
所 見 TT1とTT3のトレンチで耕作土直下から暗褐色粘質土が確認された。 TT2では安定したシルト層が見られ、シルト層から土器が2点出土した。TT2を中心 にやや北側に安定したシルト層が若干延びることから発掘調査区域を拡張する必要がある。 平成18年、19年(財)山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。







TT 3 土層確認状況



TT 2土層確認状況

(21) **保呂羽堂遺跡** (J-247)

米沢市大字窪田 所 在 地

調 査 員 高橋 敏 丸吉繁一

調 查 期 日 平成18年9月6日 試掘 11月20日立会調査

起 因 事 業 窪田地区水防倉庫新築事業

遺跡環境 遺跡は最上川の自然堤防上に位置し、周辺と比較すると島状に高くなっ ている。標高228mを測る。地目は畑地となっている。

試 掘 区 計画区域内に2.4m×8mのトレンチを設定した。

試 掘 方 法 重機により表十除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めなが ら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘調査 19.2 m 立会調査 38 m 計57.2 m 試掘面積

ピット 柱穴 検 出 遺 構

出土遺物 須恵器片 土師器片多数 鉄器片1点

見 9月に遺跡範囲内にて試掘調査を実施した。柱穴や溝跡が確認されたた 所 め、11月に水防倉庫便層により破壊される全面を対象に立会調査を実施した。

試掘調査ではトレンチ内を精査したところ、ピット3基、柱穴1基、土壙2基を検出し た。SK4は直径1m、深さ1mのやや規模の大きな柱穴で上部をSP3によって切られ ている。柱痕跡が明瞭に残り、柱は角材であることがわかる。埋土から土師器片・須恵器 片・鉄器片が出土した。SK5・SK6はともに浅く、近代以降の撹乱を受けている。覆 土から土師器片・須恵器片が出土した。

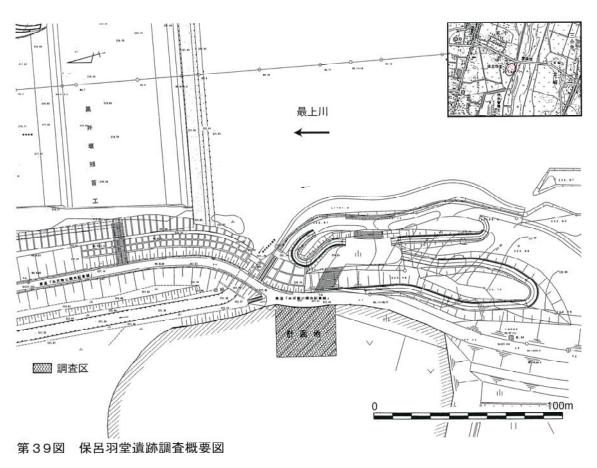
立会調査では幅1mの基礎部分の調査を行った。柱穴1基・ピット2基・竪穴住居跡1 棟を検出した。竪穴住居は南東コーナー部分の検出で、遺構確認面から15cmの深さを 測った。床面を精査したところ柱穴と壁際に周溝が認められた。床面は凹凸が見られたが 貼り床などの状況は確認できなかった。出土した遺物は土師器・須恵器などであり、平安 時代前半の時期と判断される。



遺跡近景(南~)



調査区近景(東〜)





調査区全景 (西〜)



土坑検出状況 (東〜)

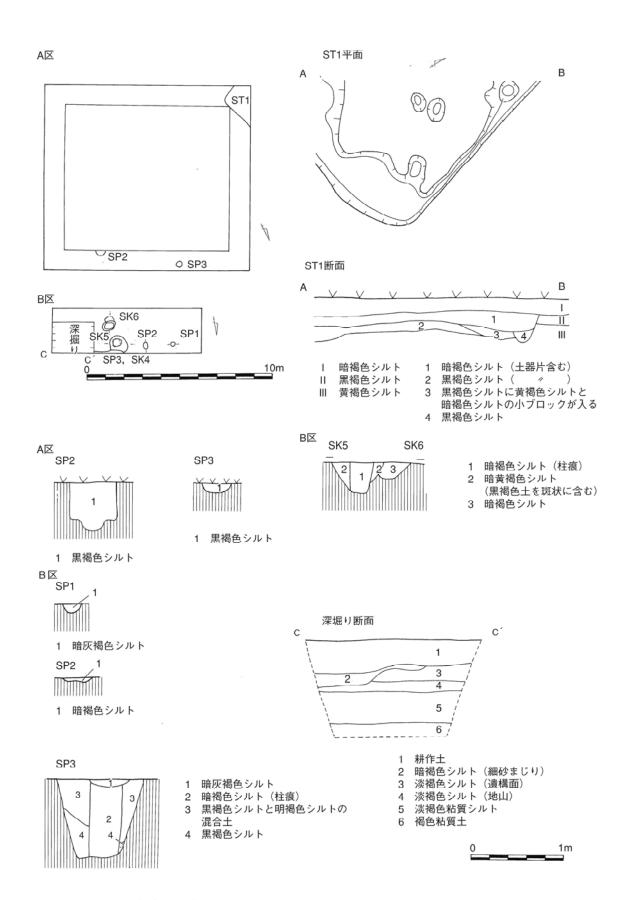


SK 4土坑断面(南〜)

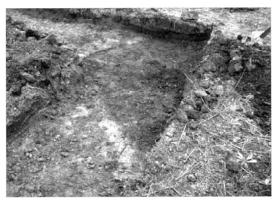


SK 4土坑完掘状況(南〜)

図版32 保呂羽堂遺跡(2)



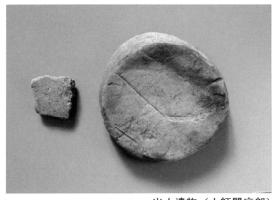
第40図 保呂羽堂遺跡調査平面図,断面図



竪穴住居跡 (ST1) 検出状況



竪穴住居跡 (ST1) 完掘状況

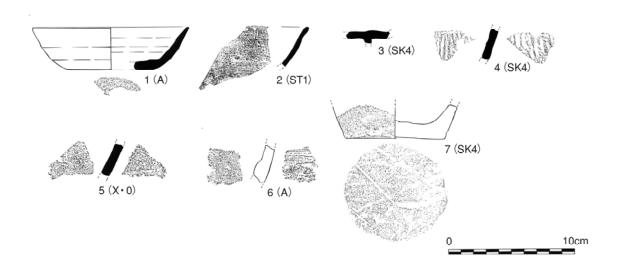


出土遺物 (土師器底部)



出土遺物 (須恵器)

図版33 保呂羽堂遺跡(3)



第41図 保呂羽堂遺跡出土遺物実測図

(22) **円能寺村東遺跡**(平成 18 年度登録)

所 在 地 酒田市大字円能寺字村東

調 査 員 高橋 敏 丸吉繁一

調 查 期 日 表面調査 平成18年10月11日

試掘調査 平成18年11月21日 22日

起 因 事 業 最上川下流農業水利事業前川 2 幹線用水路

遺跡環境 酒田の市街地の東方約5kmの平野部に位置し、周辺は水田が広がる。標高は9mを測る。

試 掘 区 用水路建設予定区域内に試掘トレンチ10本を設定した。

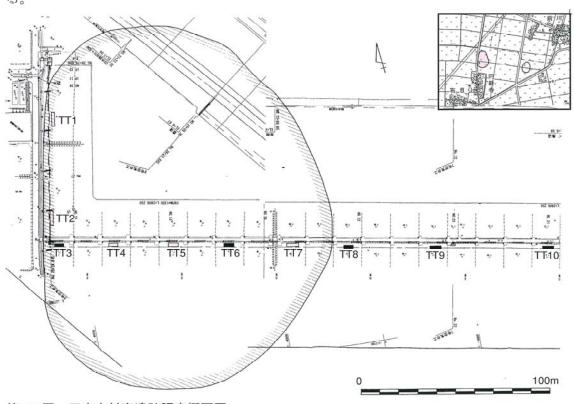
試 掘 方 法 計画区域について重機により表土除去及び遺構検出遺物包含層まで掘り 進めながら部分的に手掘りでトレンチ壁面及び底面の精査を行い、遺構遺物の確認を行っ た。

試掘面積 135㎡

検 出 遺 構 土色変化(遺構?)

出土遺物 須恵器片 赤焼土器片

所 見 設定したトレンチの内4ヶ所から須恵器片・赤焼土器片が出土した。特に TT1・TT2を中心とする範囲から多くの遺物が出土し、TT2からは遺構の可能性の ある土色変化が認められた。事業範囲内は過去の圃場整備等により一部削平されたと考え られるが遺構遺物が認められるTT1~TT5の範囲については協議・手続きが必要である。



第42図 円応寺村東遺跡調査概要図

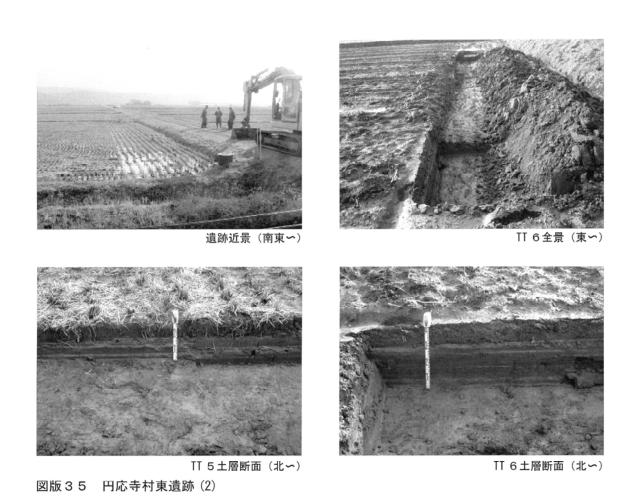


調査区近景(南東〜)



TT6 トレンチ全景 (東〜)

図版34 円応寺村東遺跡(1)



1 (TT7)

2 (TT7)

3 (TT7)

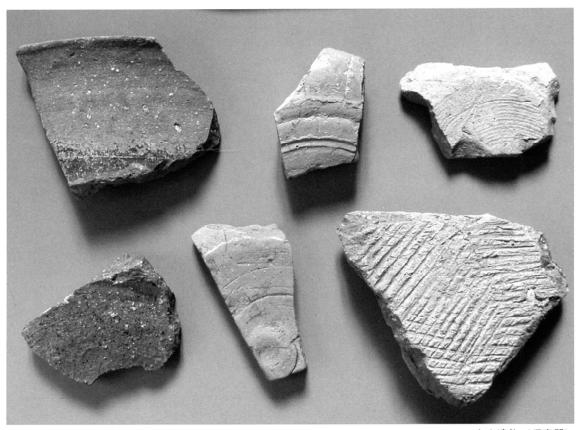
4 (TT7)

7 (TT7)

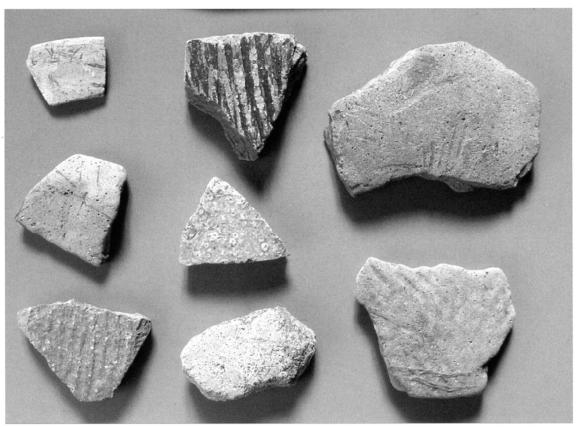
9 (TT1)

0 10cm

第43図 円応寺村東遺跡出土土器拓影図



出土遺物 (須恵器)



出土遺物 (須恵器・赤焼土器)

図版36 円応寺村東遺跡(3)

(23) 分遺跡 (平成 18 年度新規登録)

酒田市円能寺字分 所 在 地

調査員 高橋 敏 丸吉繁一

表面調査 平成18年10月11日 調査期日

試掘調査 平成18年11月21日 22日

最上川下流農業水利事業前川2幹線用水路 起因事業

酒田の市街地の東方約5 kmの平野部に位置し、周辺は水田が広がる。標 遺跡環境 高は9mを測る。

用水路建設予定区域内に試掘トレンチ6本を設定した。 試 掘 区

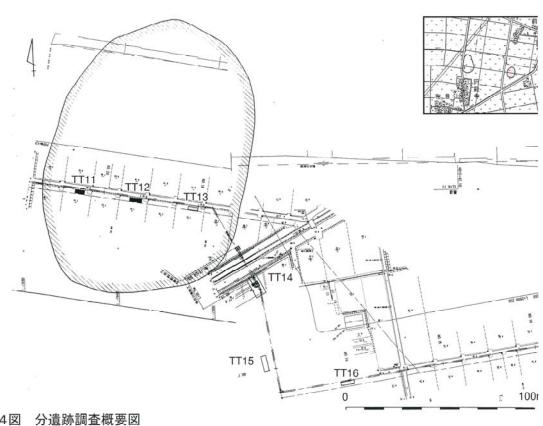
試掘方法 計画区域について重機により表土除去及び遺構検出遺物包含層まで掘り 進めながら部分的に手掘りでトレンチ壁面及び底面の精査を行い、遺構遺物の確認を行っ た。

試掘面積 90㎡

検出遺構 なし

出土遺物 須恵器片 赤焼土器片

所 見 周知の遺跡である境興野遺跡に隣接する。設定したトレンチのうちTT1 3から須恵器片・赤焼土器片が出土した。またTT12周辺の畑から多くの遺物散布を確 認した。過去の圃場整備により大規模に改変され、影響を受けたと判断された。



第44図 分遺跡調査概要図



遺跡近景 (東〜)



TTI1 トレンチ土層状況



TT12 トレンチ (東〜)



TT13 トレンチ (東〜)



出土遺物 (須恵器・赤焼土器)

Ⅲ.記録保存調査・立会い調査の概要

1 八幡西遺跡 (平成9年度登録)

所 在 地 西川町大字西大塚字八幡西

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年10月3日 4日

起因事業 一般国道287号長井南バイパス道路改良事業

公立置賜病院の南約500m、最上川左岸の河岸段丘に立地する。標高は211m 遺跡環境 を測る。地目は宅地及び畑地である。

試 掘 区 昨年度の分布調査により遺構遺物が認められたTT2トレンチ周辺を拡張した。

試 掘 方 法 重機と人力により発掘調査を実施

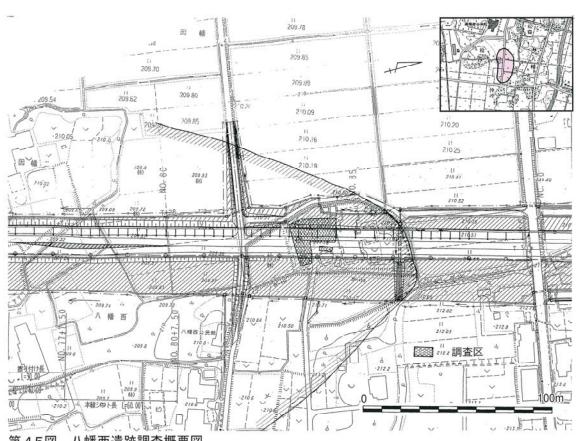
試掘面積 $320\,\text{m}^2$

調査区北西より、建物跡を構成する柱穴及び溝跡を検出。 検出遺構

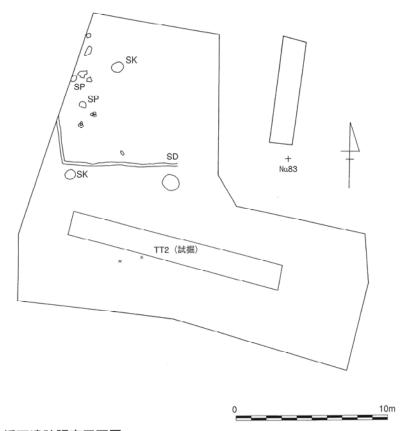
縄文時代早期の土器片1点 削器1点 出土遺物 陶器片

時 縄文時代早期 代

試掘調査時のトレンチ周辺より縄文時代早期の土器片と削器が出土したが、関連す 見 所 る遺構は確認できなかった。調査区北西において、平安時代ないし中世の建物跡を構成すると思わ れる柱穴と溝跡を検出した。しかし遺構に関わる遺物の出土がないため、その帰属時期は不明であ る。



第45図 八幡西遺跡調査概要図



第46図 八幡西遺跡調査平面図



図版38 八幡西遺跡(1)



遺構検出状況 (東〜)



遺構精査状況 (南〜)



溝跡土層断面 (東〜)



溝跡完掘状況 (東〜)



土坑断面(南~)

図版39 八幡西遺跡(2)



柱穴断面(南〜)



柱穴断面(東〜)



石器出土状況



出土陶器



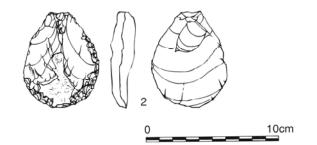
図版40 八幡西遺跡(3)



同左裏面



第47図 八幡西遺跡出土遺物実測図



2 空沢遺跡

(1)調査要項

所 在 地 山形県長井市寺泉字空沢西・入野川向

調 査 委 託 者 国土交通省

調 査 受 託 者 山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室

現 地 調 査 平成 18 年 11 月 15 日~11 月 22 日

調 査 面 積 150 m²

調査担当者 技師 丸吉繁一

調 査 協 力 国土交通省長井ダム調査事務所

長井市教育委員会

財団法人山形県埋蔵文化財センター

(2)調査に至る経緯

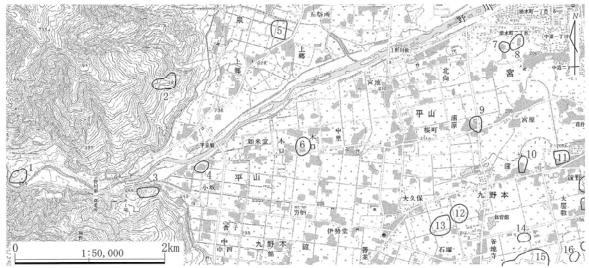
空沢遺跡の発掘調査は国土交通省長井ダム建設事業に伴って行なったものである。空沢遺跡は昭和61年度に山形県教育委員会が実施した埋蔵文化財包蔵地基礎調査によって確認され、「嵩蹴遺跡」として登録された遺跡である(平成16年度に「空沢遺跡」と訂正された)。平成15年度には山形県企業局による新野川第一発電所建設工事事業にともなって財団法人山形県埋蔵文化財センターによる記録保存のための発掘調査が行なわれ、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、陥穴列など縄文時代早期から晩期までの遺構と遺物が出土している。

事業箇所は前述の埋蔵文化財センター調査区に北接しており、地下には遺構の残存が予想された。このため国土交通省長井ダム工事事務所と協議を行ない、工事によって破壊される 150 ㎡を対象として記録保存のための緊急発掘調査を実施することで合意を得た。調査は事業主体である長井ダム工事事務所の協力の下、県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室が実施した。

(3) 遺跡の立地と環境

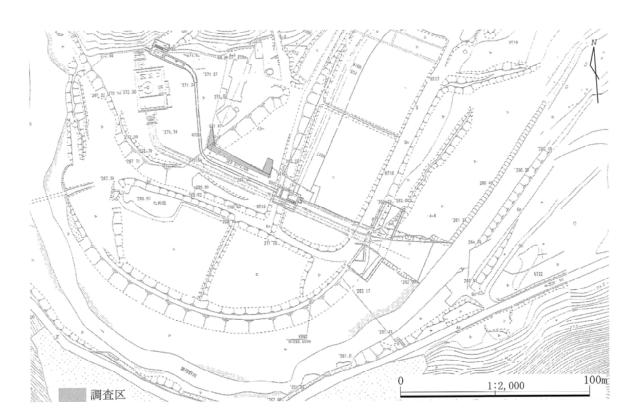
空沢遺跡は山形県長井市寺泉字空沢西・入野川向に位置する。遺跡は野川左岸で、川が大きく屈曲する場所に張り出した南向きの河岸段丘上にある。周辺は山間地で、野川により形成された深い谷が走り、長井盆地の平野部からは 1.5 kmほど奥まった場所である。

山間地ということもあり、空沢遺跡周辺には遺跡はほとんど確認されていない。野川流域では、さらに 6 kmほど上った場所に縄文時代とされる桂谷遺跡があるが、詳細は不明である。下流側も平野部に入るまでは縄文時代の遺跡は確認されていない。一方、朝日山地と平野部の境界付近には長者屋敷遺跡など縄文時代の遺跡が密集する草岡・勧進台地区を中心に、南北に遺跡が点在している。

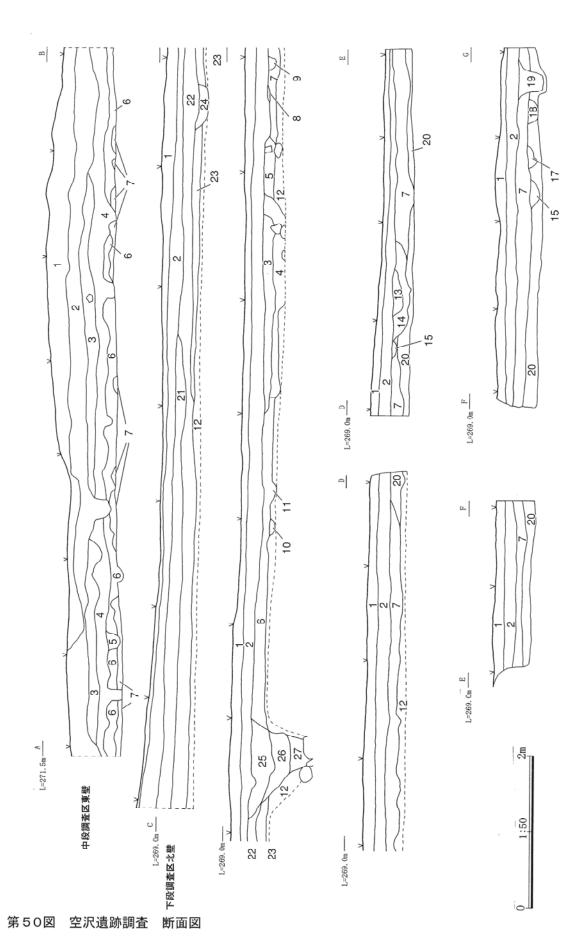


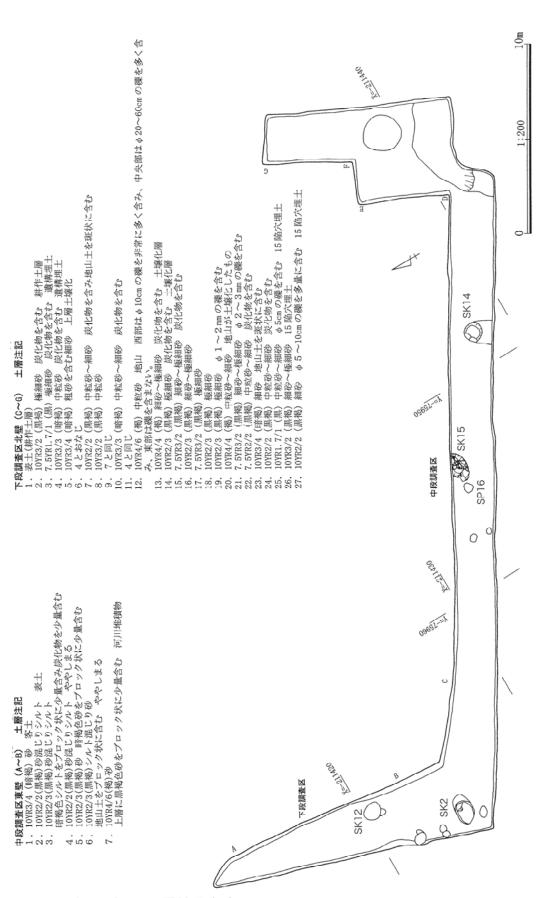
- 1. 空沢遺跡 2. 南鴨石館跡 3. 小豆澤館跡 4. 小坂館跡 5. 寺泉古館跡 6. 片倉館跡
- 7. 址/上遺跡 8. 堀端遺跡 9. 浦原館跡 10. 金城館跡 11. 正福寺館跡 12. 新町遺跡
- 13. 登之越遺跡 14. 谷地寺遺跡 15. 谷地中遺跡 16. 上福田遺跡

第48図 空沢遺跡周辺遺跡地図 (国土地理院発行2万5000分の1地形図『長井』『羽前上郷』より作成)



第49図 空沢遺跡調査区位置図





第51図 空沢遺跡調査 平面図断面(1)

(4)調査の経過

発掘調査は平成 18 年 11 月 15 日から 11 月 22 日までの延べ 6 日間実施した。調査地は野川の中位段丘面(以下「中段」という)と下位段丘面(以下「下段」という)にまたがっており、排土置場の都合から、まず中段の南半を調査し、記録をとって埋め戻した後に北半および下段を調査することとした。経過は以下のとおりである。

11月15~16日 中段南端を重機で掘削し、精査・記録後に埋め戻した。その後中段北半・下段の重機掘削を行なった。

- 11月17~21日 遺構検出・精査・記録作成を行なった。
- 11月22日 調査区を埋め戻し、調査を終了した。

(5)調査の成果

基本層序

調査対象地は畑地として利用されており、最上層は耕作土である。中段と下段でやや 堆積状況が異なっており、中段では耕作土の下に黒褐色の砂混じりシルト層がみられ、 その下層で地山である褐色砂を検出した。包含層はみられなかった。下段は耕作土層の 下に包含層となる土壌化した層がみられ、その下層で中段と同じ褐色砂の地山を検出し た。下段の地山はところどころで φ 60 cm 程度の大きな石を多量に含んでいた。

遺構

中段では多数のピットと土坑を、下段では土坑、陥穴、風倒木痕などを検出した。

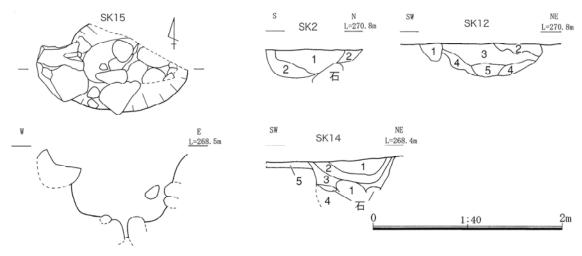
下段調査区で検出した。埋土に焼土を含み、底部には φ 50 c m 程度の大きな石が複数見られたが、これは地山に含まれるもので人為的に埋めたものではない。縄文時代中期(大木 8 a 式)の深鉢が出土した。

S K 1 5

SK14

下段調査区の中央付近で検出した。東半部は調査区外に延びているため検出できなかったが、平面形、底部の構造などからみて、埋蔵文化財センターによる調査で報告されている「陥穴A群」の続きである。上端の平面形は楕円形で、検出面から底面までの深さは約70cmあり、穴底には直径10cm程度の杭を立てた穴がみられる。杭穴の周囲には径20cm程度の礫がみられ、杭を支えるような構造となっているが、据えつけたような痕跡は確認できなかった。石は土中に埋まりこんでおり、置いたものではなく土中の石をそのまま残して利用したものと推測される。

遺物は出土していないが、埋蔵文化財センターの調査報告書では陥穴を縄文時代早期から前期のものと推測している。



SK2土層注記

- 中粒砂
- 2. 暗褐色 中粒砂 淡黄褐色砂を多く含む

SK12土層注記

- SK12土層注記
 1. 10YR3/3 (暗褐)砂 暗褐色砂をブロック状に少量含む 1元にい
 2. 10YR4/4 (褐)砂 黒褐色シルト・砂をブロック状に含む
 3. 10YR2/2 (黒褐)シルト混じり砂 褐色砂をブロック状に微量含む しまる
 4. 10YR5/6 (黄褐) 細砂 黒色シルト混じり砂をブロック状に含む しまる
 ロVP3/2 (黒褐)砂混じりシルト 褐色砂をブロック状に少量含む しまる

SK14土層注記

- 3. 10YR2/3 (黒褐) 細砂 炭化物を含む土壌化層 2. 10YR3/3 (暗褐) 細砂 炭化物を含む ややしまる 3. 10YR2/3 (黒褐) 細砂~極細砂 地山土を層状に含む
- 地山

4. 10YR4/4 (褐) 中粒砂~細砂 5. 10YR3/4 (暗褐) 中粒砂~細砂

第52図 空沢遺跡調査 平面図断面(2)

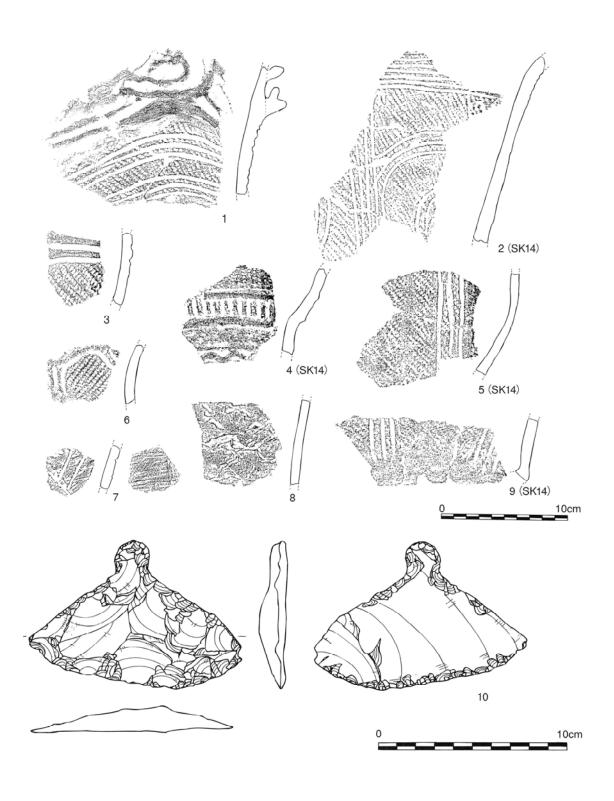
遺物

出土した遺物には縄文土器と石器がある。1・6・7は下段包含層から出土 した。1は大木8a式、6は8b式の深鉢である。7は縄文時代早期田戸上層 式の深鉢である。貝殻腹縁による条痕に沈線を施している。2・4・5・9は SK14から出土した。大木8a式の深鉢で、これらは同一個体である。3は SP16から出土した大木8b式の深鉢である。8は下段東端の風倒木痕から 出土した大木2b式の深鉢である。S字連続撚糸文がみられる。10は下段包含 層から出土した頁岩製の石匙である。幅約 11.5cmと比較的大型で、横長の身 部につまみがつく。つまみ部・刃部は両面加工、身部は裏面に大きく主要剥離 面を残す。

(6)調査のまとめ

このたびの調査では調査区全体にわたって縄文時代の遺構を検出することができた。 また、平成15年度調査で検出した陥穴列の続きを検出することができた。出土した遺 物には縄文時代早期から中期までのものがあり、狭小な調査区ながら多様な時期のもの がみられた。また、下段については、さらに北側へと遺跡が続いていることが明らかで ある。

空沢遺跡は狩猟場および食料採集・貯蔵等を行なった遺跡として位置づけられてお り、今回の調査でもその位置づけを追認する結果を得た。縄文時代における野川上流部 の土地利用を考える上で重要な成果の一つとしてあげることができよう。



第53図 空沢遺跡 出土遺物実測図





下位段丘面東部 (北東〜)



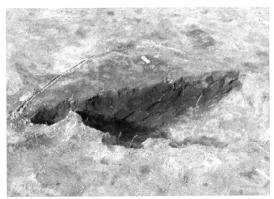
中位段丘面遺構検出状況(南~)



SK15 陥穴 (西〜) 15



SK2 土層断面(東~)



SK12 土層断面(東〜)

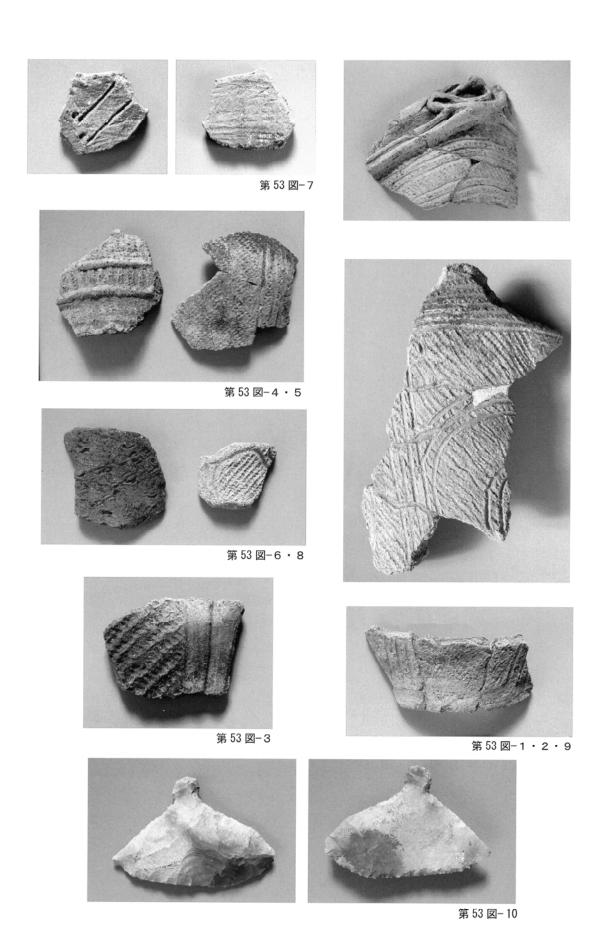


SK14 土層断面(南東〜)



調査状況

図版41 空沢遺跡(1)



図版42 空沢遺跡出土遺物(2)

3 石橋遺跡

(1)調査要項

所 在 地 山形県天童市貫津字石橋

調 査 委 託 者 山形県住宅供給公社

調 査 受 託 者 山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室

現 地 調 査 平成 18 年 9 月 11 日 ~ 9 月 25 日

調 査 面 積 415 ㎡

調查担当者 埋蔵文化財調査研究員 高橋 敏 技師 丸吉繁一

調 査 協 力 山形県住宅供給公社

天童市教育委員会

(2)調査に至る経緯

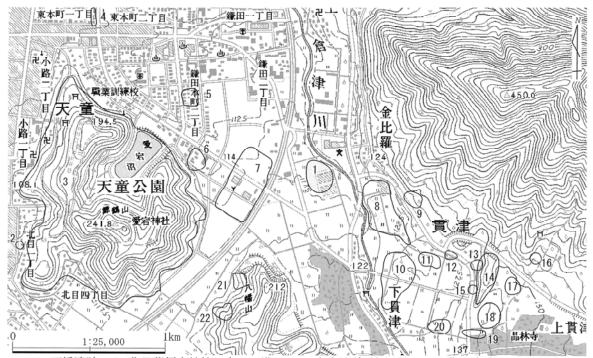
石橋遺跡は山形県住宅供給公社による公社タウン天童津山分譲住宅建設事業に先立ち、平成18年6月に山形県教育委員会で実施した試掘調査により新たに確認された遺跡である。試掘調査では事業予定地の西半ではほ場整備により既に遺構は削平されていたが、東半では溝・ピットを検出し、平安時代の須恵器・土師器が出土した。この結果を受けて事業主体の山形県住宅供給公社と協議を行ない、宅地内道路として造成される415㎡を対象として記録保存のための緊急発掘調査を実施することで合意を得た。調査面積が少ないこともあり、発掘調査は事業主体の協力の下、県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室で実施した。

なお、宅地として造成される部分については薄い盛土施行の上に整地を施す設計となっており、地下への影響が少ないと認められたため、調査の対象とはしていない。 また、施工前に農道として利用されていた部分は施工時期の違いもあり、造成工事時に立ち会って記録保存の措置を執った。

(3)遺跡の立地と環境

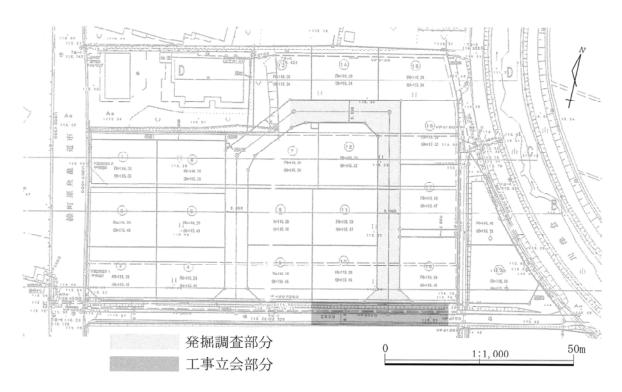
石橋遺跡は天童市の中心部から南東に 1.5 k mの倉津川左岸に位置する。倉津川は遺跡の東側を北流し、さらに東側には蔵王山系に連なる山々が迫っている。遺跡はこれらの山系に由来する扇状地上にあり、倉津川の形成した自然堤防上の安定した立地となっている。遺跡の標高は 115m程度である。

遺跡は倉津川を挟んだ東側の山寺街道を臨む場所にある。倉津川左岸側においては、現在のところ石橋遺跡を除いて遺跡が確認されていない。唯一上流に越王山軍事洞窟群があるが、近代の遺跡である。西側の国道 13 号バイパス付近には平安時代とされる鍬ノ町条理遺跡があるが、内容は詳らかでない。一方、右岸側には石橋遺跡と同じく平安時代の遺物が確認されている湯尻遺跡、白山堂遺跡、長谷川遺跡などが存在する。さらに、白山堂A・B墳墓、石打場墳墓といった同時代の墳墓も確認されている。また、周辺には縄文時代の遺跡や中世城館跡も多い。ただし、石橋遺跡を除いては発掘調査を実施したものはなく、湯尻遺跡で遺跡詳細分布調査に伴う確認調査により竪穴住居跡などを検出したのみであり、周辺遺跡の詳細は不明である。



- 2. 北目薬師寺神社-·字一石塔 3. 天童古城(舞鶴山城) 4. 藤田遺跡 5. 塚田遺跡
- 6. 鍬/町遺跡 7. 鍬/町条里遺構 8. 湯尻遺跡 9. 石打場墳墓 10. 中島館跡 11. 山崎A遺跡 12. 山崎C遺跡 13. 山崎D遺跡 14. 山崎山館跡 15. 山崎B遺跡 16. 御阿弥陀窯跡 17. 阿弥陀堂跡 18. 古関B遺跡 19. 古関C遺跡 20. 古関A遺跡 21. 善行寺跡 22. 八幡山墳墓群

第54図 石橋遺跡位置図 (国土地理院発行2万5000分の1地形図『天童』より作成)



第55図 石橋遺跡調査区位置図

(4)調査の経過

発掘調査は平成 18 年 9 月 11 日から 9 月 25 日までの延べ 10 日間実施した。調査の 経過は以下の通りである。

- 9月11・12日 器材を搬入し、北西側から道路地形に沿って重機掘削を行なった。
- 9月13~15日 検出と同時に平面図を作成した。15日に検出作業を終え、写真撮影を 行なった。
- 9月19~25日 遺構精査及び記録の作成を行なった。25日に山形県住宅供給公社、天 童市都市計画課に調査結果と遺跡の範囲などについて現地で説明を行ない、器材等を 撤収して調査を終了した。

また、農道部分の舗装道路化にともなう工事の立会は11月9・10日の2日間実施した。

(5)調査の成果

基本層序

調査地は昭和期のほ場整備により大きく改変を受けていた。包含層は削平されており、遺構面は現在の水田に伴う耕作土(第 56 図土層図-1)とほ場整備時に盛られた整地層(土層図-3)の直下、地表下 $10\sim25$ c mで検出した。遺構面は ϕ 10 c m程度の礫を多量に含む明黄褐色の粘土であるが、遺構に混じってほ場整備時のものと思われる重機の痕跡が多くみられた。また、工事立会を行なった箇所については、北側はほ場整備に加えて暗渠や埋管により全面にわたって撹乱を受けていたものの、一部で遺構を確認することができた。南東半部はグライ化した粘土が厚く堆積しており、倉津川の旧流路が入り込んでいたものと考えられる。

潰構

検出した遺構には溝、ピット、土坑がある。調査区南側で掘立柱建物跡を、北端で 平行に走る複数の溝を検出した。また、そのほかに柱痕を確認できるピットをいくつ か検出したが、調査区が狭長であったこともあり、建物として確認することはできな かった。

掘立柱建物跡(第58図)

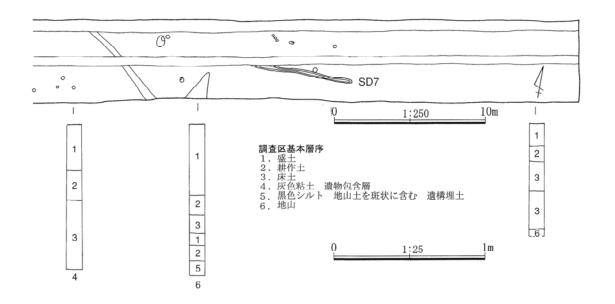
EB74・75・85・90・99・104で構成され、調査区内では東半部分を検出するのみにとどまった。どの方向が桁行か判然としないが、東辺長は 5.2mであり、方位はN-7°-Wである。遺物は EB74 から土師器の甕破片 1 点が出土したのみだが、このことから古代の掘立柱建物跡と考えられる。

溝・土坑群(第57・59図)

SD 7 溝跡 工事立会で確認した。平安時代の遺物を包含する灰色の粘土の上面を切っており、他の遺構よりも新しいものかもしれないが、出土した遺物はすべて平安時代の須恵器、土師器である。浅く、調査区内で途切れていることから、上面は削平されたものであろう。



第56図 石橋遺跡調査平面·断面図(1)



第57図 石橋遺跡調査平面,断面図(2)

溝・土坑群 調査区の北端で検出した平行に走る溝とそれに関連するとみられる土坑である。SD30 溝跡のみ南へ屈曲している。SD30・31・40 溝跡には切り合いがあり、SD30・40 溝跡とも SD31 溝跡を切っている。SD31 溝跡は底面にラミナをもつ砂やシルト層が堆積しており、水が流れていたことがわかる。また、平面プランでは確認できなかったが、層位の検討から新旧2本の溝がきりあっていることが判明した。新しい溝は東側から SK44 土坑の西側まで延び、そこで途切れている。

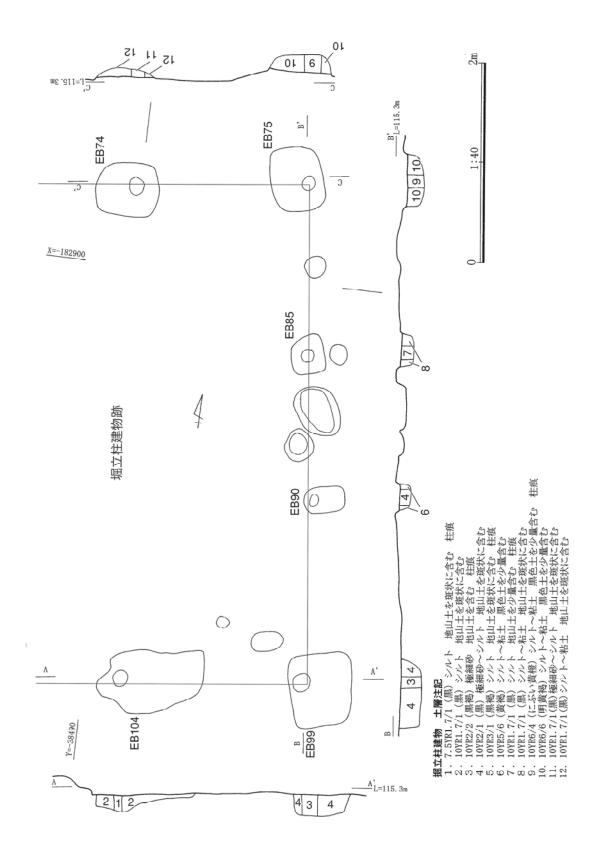
溝の北側には SK44・45 土坑があり、SD31 溝跡(新)と SK45 土坑はともに SK44 土坑を切っている。SK45 土坑の北側はグライ化した粘土が厚く堆積し、地山も急激に落ち込んでいくことから、倉津川の旧流路が入り込んでいるものとみられる。

溝と土坑の関係は不明であるが、土層の堆積状況からみて SD31 溝跡(旧)と SK44 土坑は繋がっていたようである。また、SD31 溝跡(新)・SK45 土坑はそれぞれ SD31 溝跡(旧)・SK44 土坑を掘り直したものとみられるが、SD31 溝跡(新)の出土遺物は SK45 土坑出土のものと接合するものがあることから考えて、これらも繋がっていたものと推測できる。SD31 溝跡は新旧とも、底面レベルが SK44 土坑と接するあたりで最も低くなっており、水は SK44 土坑や SK45 土坑へと流れ込んでいたものかもしれない。

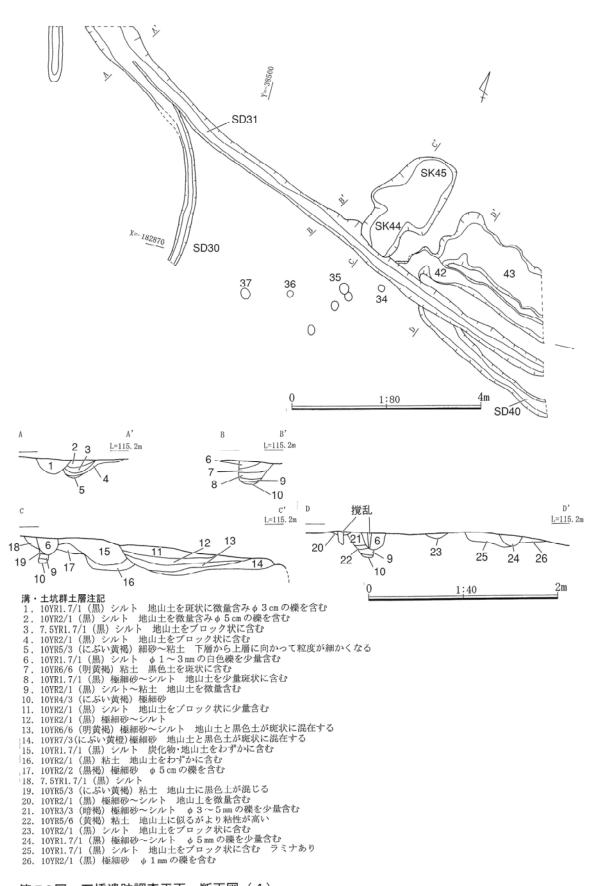
遺物は SD31 溝跡(新)・SK45 土坑から比較的多く出土している。時期にはやや幅があるが、須恵器の底部回転糸切の杯、甕、蓋などは9世紀のものである。SK45 土坑からは縄文中期とみられる深鉢底部も出土しており、付近に縄文時代の遺跡が存在することがうかがわれる。

柵状ピット列

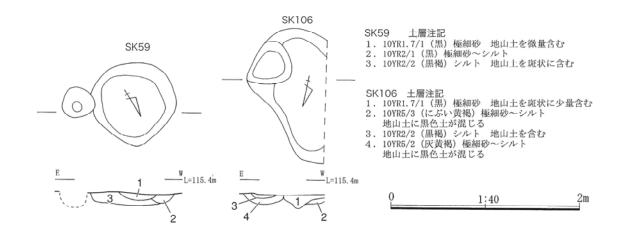
SP34~37 は直線状に並ぶことから、柵状に杭が並んでいたものとみられる。しかし残存状態はきわめて悪く、10 c m程度のごく浅い遺構しか確認できなかった。溝と方向を異にしているが、溝を切っているような状況は観察されなかったため、溝よりも古い時期のものと考えられる。遺物は出土していない。



第58図 石橋遺跡調査平面·断面図(3)



第59図 石橋遺跡調査平面・断面図(4)



第60図 石橋遺跡調査平面・断面図 (5)

遺物(第61図)

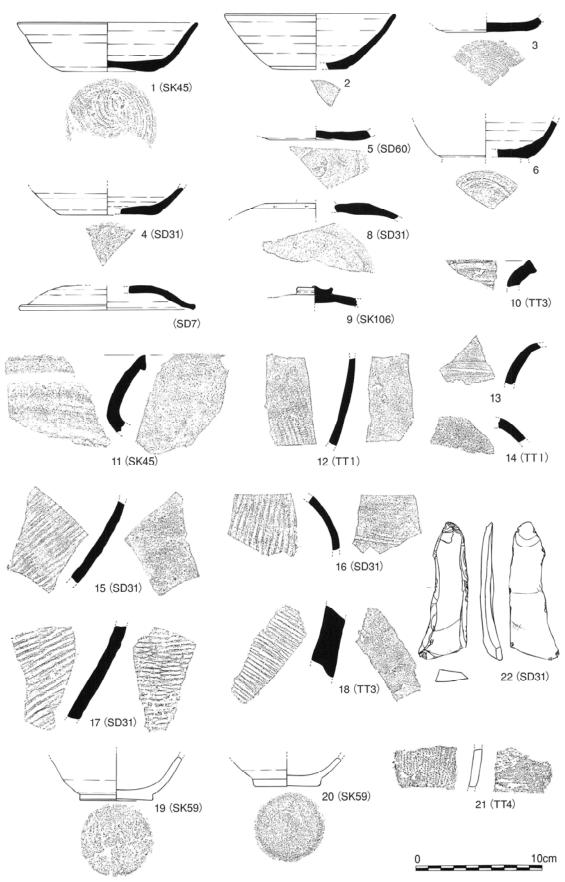
第 61 図 $1 \sim 3$ 、11 は SK45 土坑出土の遺物である。坏の底部は回転糸切で、1 は器形から 9 世紀前半のもの、2 は 9 世紀後半のものである。11 と同一個体が SD31 溝跡からも出土している。 4 、 6 、 8 、 15 、 22 は SD31 溝跡からの出土遺物である。22 を除き、9 世紀中頃のものである。5 は SD64 溝跡から出土したヘラ切りの須恵器坏底部である。6 つラ切りの須恵器は調査地の南側の水田でも表採しており、本遺跡が 6 世紀代から継続しているものであることを示唆する。6 は SK59 土坑から出土した赤焼土器の杯で、6 世紀前半のものである。6 は試掘調査で出土したもので、珠洲系の甕である。

(6)調査のまとめ

以上のように、石橋遺跡では掘立柱建物・溝群をもつ平安時代の集落跡を検出した。 これまで倉津川左岸では遺跡が見つかっておらず、当地域の歴史を考える上で重要な 成果を上げることができたと言える。

集落は9世紀を中心として、8世紀から10世紀にわたり存続したこと、また、周辺に縄文時代の遺跡が存在する可能性があることも判明した。遺跡はほ場整備の影響を受けており、残存状況は良好とは言えないが、遺構を確認することはできる。東側は倉津川が流れており、遺跡の中心部は今回の調査地の南および西側とみられる。

なお、調査地南側は今回の調査対象地よりも高い水田面となっており、工事立会でも遺構面の上層に厚く盛土がなされていることが確認できている。ほ場整備による削平の影響も少なかったとみられ、遺構が良好に残存しているものと予想される。



第61図 石橋遺跡 出土遺物実測図

表-3 石橋遺跡出土遺物観察表

(単	(寸	cm)

女 3 14 1個.	退奶山土退彻镇	10 Tr 10				(単位 い
遺物番号	種別	器種	口径	底径	器高(残存長)	備考
61-1	須恵器	杯	14.3	7.2	3.2	
61-2	須恵器	杯	13.5	5.9	4.4	
61-3	須恵器	杯	_	6.5	(1.2)	
61-4	須恵器	杯	_	7.4	(2.3)	
61-5			_	7.8	(0.8)	
61-6	須恵器	杯	_	_	(3.0)	高台剥離
61-7	須恵器	蓋	13.8	_	(2.1)	
61-8	須恵器	蓋	_	_	(1.3)	
61-9	須恵器	蓋	_	_	(1.5)	
61-10	須恵器	甕	_	_	(2.2)	
61-11	須恵器	甕	_	_	(6.0)	
61-12	須恵器	甕	_			
61-13	須恵器	壷	_	_	(3.0)	
61-14	須恵器	壷	_	_	(2.0)	
61-15	須恵器	甕	_	_	(6.8)	
61-16	須恵器	甕	_	_	(4.2)	
61-17	須恵器	甕	_	_	(7.5)	
61-18	珠洲系陶器	甕	_	_	(5.7)	
61-19	赤焼土器	杯	_	5.7	(3.8)	
61-20	赤焼土器	杯	_	5.0	(2.3)	
61-21	土師器	甕	_	_	(3.0)	
61-22	石器	剥片	_	_	(10.8)	



調査区全景(南〜)



調査区北半全景 (西〜)



調査区南半全景(南〜)



溝・土坑群検出状況(東〜)



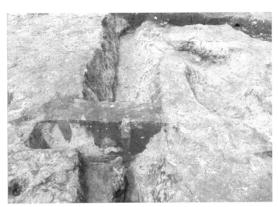
溝・土坑群精査状況(東〜)



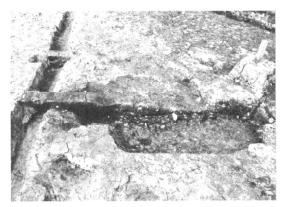
SD30・31 溝跡土層断面(東〜)



SD31 溝跡土層断面 (東〜)



SD31 · 40 溝跡土層断面(東〜)

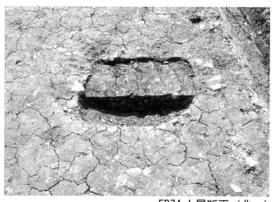


SD31 溝跡・SK44・45 土層断面(東〜)

図版44 石橋遺跡(2)



掘立柱建物跡 (東〜)



EB74 土層断面(北〜)



EB75 土層断面 (北〜)



EB99 土層断面(南西〜)

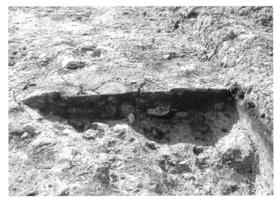


EB104 土層断面 (南~)

図版45 石橋遺跡(3)



SK59 完掘状況(北西〜)



SK106·107 土層断面 (北〜)



工事立会調査区全景 (東〜)



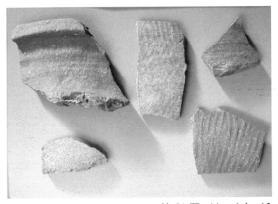
第 61 図-6~10



第61図-2~5



第 61 図-1



第 61 図-11~14・16



第 61 図-19・20

図版46 石橋遺跡(4)

表-4 掲載遺跡位置図使用図幅一覧(2万5千分の1)

No.	遺跡名	図 幅 名	No.	遺跡名	図 幅 名
1	熊野堂前遺跡	寒河江	31	天神堂大坪遺跡	余目
2	松岡山遺跡	寒河江	32	野田蕨手刀出土地1	楯岡
3	石持原遺跡	寒河江	33	草伊賀B遺跡	楯岡
4	たらのき代D遺跡	大網	34	石橋遺跡	天童
5	葎田 2 遺跡	羽根沢温泉	35	天矢場遺跡	羽前中山
6	鷺畑古墳・西山墳墓	羽黒山	36	山形城三ノ丸	山形北部
7	九野本地区遺跡	長井・羽前小松	37	達磨寺遺跡	山形北部
8	海谷森遺跡	大網	38	檜原遺跡	羽前小松
9	山元遺跡	天童	39	上大作裏遺跡	羽前小松
10	小反遺跡	羽根沢温泉	40	堤屋敷遺跡	米沢東部
11	由良館	三瀬	41	川内袋遺跡	三瀬・温海
12	堅苔沢館	三瀬	42	南田遺跡	鶴岡
13	青沢館	升田	43	保呂羽堂遺跡	糠野目
14	山寺	山寺	44	円能寺村東遺跡	羽後観音寺
15	市布 d 遺跡	米沢	45	分遺跡	羽後観音寺
16	七郎ヶ沢遺跡	米沢東部	46	八幡西遺跡	羽前小松
17	亀ヶ崎城跡	酒田南部	47	石橋遺跡	天童
18	間沢館	海味	48	空沢遺跡	羽前上郷
19	海味楯	海味			
20	玉作3・出張坂城	雀鳥 岡			
21	新庄古口道路関係遺跡1	古口			
22	新庄古口道路関係遺跡2	古口			
23	新庄古口道路関係遺跡3	古口			
24	西山遺跡	羽黒山			
25	植ノ山1	上山			
26	野村清水遺跡	羽黒山			
27	上の寺遺跡	寒河江			
28	上野遺跡	赤湯			
29	泉興野1遺跡	余目			
30	泉興野2遺跡	余目			

IV まとめ

平成 18 年度の遺跡詳細分布調査は、平成 19 年度以降に予定されている開発事業に 先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにし、開発側との調整を図ることを目的とし て実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会調査も行った。

1 調査遺跡数

調査遺跡数 67 遺跡(表面踏査・試掘調査・発掘調査・立会調査・新規発見遺跡含む)、その他に調査遺跡数に含めないが、登録遺跡外で遺跡の有無を確認するために 試掘調査を実施したもの(調査の結果、遺跡とならないもの)や表面踏査により各種 開発事業予定地で抽出した遺跡可能性地(今後の試掘調査等で遺跡となるかを判断するもの)などについても調査を実施した。

2 新規発見遺跡、範囲の訂正、遺跡登録抹消

今年度の新規発見遺跡数 18 遺跡 範囲の訂正、名称の変更等の措置が講じられた遺跡数 6 遺跡 以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

(1) 県教育委員会が発見し登録した遺跡

	(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時期)
1	葎田2遺跡	鮭川村大字庭月字葎田	集落跡·城館跡	平安・中世
2	石橋遺跡	天童市大字貫津字石橋	集落跡	平安時代
3	タテ遺跡	戸沢村大字蔵岡	散布地	縄文・平安
4	皿嶋遺跡	戸沢村大字古口	散布地	奈良・平安
5	円能寺村東遺跡	酒田市大字境興野字		
		円能寺村東	集落跡	奈良・平安
6	分遺跡	酒田市大字鏡興野字分	集落跡	奈良・平安
7	新町遺跡	長井市大字九野本字新町	散布地	縄文時代
8	天神堂大坪遺跡	酒田市大字砂越字粕町	散布地	奈良・平安
9	泉興野1遺跡	酒田市大字飛鳥字矢舞台	散布地	奈良・平安
10	泉興野2遺跡	酒田市大字飛鳥字割前	散布地	奈良・平安
11	ホーヤ沢遺跡	舟形町大字冨田字ホーヤ沢	散布地 維	文・奈良・平安
12	高田遺跡	新庄市大字福田字高田	散布地	文・奈良・平安
13	八幡原1遺跡	新庄市大字福田字八幡原	散布地	文・奈良・平安
14	八幡原 2 遺跡	新庄市大字福田字八幡原	散布地	縄文時代
15	福宮遺跡	新庄市大字本合海字福宮	散布地	縄文時代
16	天矢場遺跡	南陽市大字川樋字天矢場	集落跡	縄文・平安

(2) 国等の機関、市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出で登録した遺跡

1 安如寺遺跡 上山市大字仙石字安如寺 集落跡 平安時代

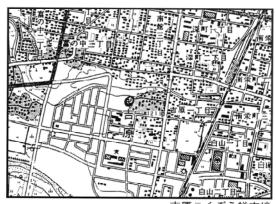
2 吉原こくぞうさま古墳 山形市大字吉原字吉原 古墳 古墳時代

(3) 範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡

(遺跡名) (変更内容) (変更を必要とする文献名) 1 北道上A遺跡 範囲の修正 平成 15 年 3 月『山形県遺跡地図CDROM』 2 植ノ山1遺跡 平成17年3月『分布調査報告書(31)』 範囲の修正 3 山元遺跡 範囲の修正 平成 15 年 3 月『山形県遺跡地図CDROM』 範囲の修正 平成 15 年 3 月『山形県遺跡地図CDROM』 4 草伊賀B遺跡 5 堤屋敷遺跡 範囲の修正 平成18年3月『分布調査報告書(32)』 6 南田遺跡 範囲の修正 平成19年3月『分布調査報告書(33)』



安如寺遺跡



吉原こくぞう様古墳

報告書抄録

						<u></u>	3 1/ 2	~1.					
ふりがた	1	ぶんぷちょう	さほうこくし	1									
書名		分布調査報告書(34)											
副書名													
巻次													
シリーフ	(名	山形県埋蔵文化財調査報告書											
シリーフ	で番号	第208集											
編著者	名	阿部明彦	石井	告幸	丸吉繁	<u>;</u> —.	· 高桐	喬敏(平)	战18年	度担	1当)		
編集機	関	山形県教	育委員会	À									
所在地		₹990-8	3570	山形県	山形市	i松	波二丁	18番1	.号 门	EL	023-630	0-2880	
発行年	月日	西暦 200	08年3月	31日									
ふりが		ふりが 所 在	地	っ 市町村	ード 遺物番	号	北緯	東経	調査其	月間	調査面積 (m²)	調査原因	
はちまんにし		やまがたけん 山形県 おおあざにしおおっ 大字西大均		382	平成9		38度 02分	140度 04分	20061003 20061004 32		320	一般国道287 号長井南バイ パス道路改良	
1.3 5.27		あざはちまんにし字八幡西やまがたけん・	てんどうし			.,.	52秒	08秒				工事	
石橋		山形県 おおあざぬくっ 大字貫津 あざいしばし	天童市	210	平成18 度登針		38度 21分	140度 24分	20060 ~ 20060		415	住宅団地造成 事業	
		字石橋					15秒	2秒					
おおあざてらいずみ		昭和6		38度 05分 40秒	139度 57分 48秒	~	20061115 ~ 20061122		長井ダム建設 事業利水補償 施設建設工事				
遺跡名	種別	主な時代	主	な遺構		主な遺物					特記事項		
八幡西	散布地	縄文時代	建文時代 柱穴 8 溝跡 1 土壙 3				文土器 器 剥	建物助を確認し/			中世と思われる		
石橋	集落跡	平安時代	建物跡 土壙 溝跡	1		須恵器 あかやき土器 珠洲系陶器				(総出土箱数: 1 箱) 平安時代の掘立柱建物からなる集落の一部を検出した。 水田面は過去の耕地整理で 削平されているが遺構の遺 存が確認された。 (総出土箱数: 2 箱)			
空沢	集落跡	縄文時代	土壙ピット	5 8		縄文土器(早期~中期) 石匙				野川の左岸に立地する縄文 時代のムラの跡である。おと し穴が見つかっている。縄文 時代早期から中期にかけて の遺物が出土した。 (総出土箱数:1箱)			

山形県埋蔵文化財調査報告書第208集

分布調査報告書(34)

平成 18 年度以降農林土木事業他関係遺跡国土交通省事業関係遺跡農林水産省関係遺跡東北中央自動車道関係遺跡日本海沿岸東北自動車道関係遺跡

平成 20 年 3 月 25 日 印 刷 平成 20 年 3 月 31 日 発 行 発 行 山形県教育委員会 印 刷 株式会社ケムシー